

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 I (Accounting I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 野 清 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授業概要： 会計学Ⅰでは、会計の意義と領域、会計の法的制度、会計の基本構造、利益計算の基本原則をまず解説する。これまでは会計学の総論であるが、次に、会計学の各論を解説する。それは、現金・預金と金銭債権の会計、有価証券の会計および棚卸資産の会計である。									
授業目標： 会計学Ⅰおよび次の会計学Ⅱは、最新の会計基準や会計法を取り扱いつつ、会計の意義から考察を初めて、貸借対照表および損益計算書における各項目の会計処理を全般的に理解し、会計手続の最終段階である財務諸表を正式に作成できるようにすることを目標としている。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	会計の意義と領域 (1) 会計の意義を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
2	会計の意義と領域 (2) 財務会計と管理会計など、会計の領域を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
3	会計の法的制度 (1) 会計の規制に関する法律を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
4	会計の法的制度 (2) 金融商品取引法会計等を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
5	会計の基本構造 (1) 会計公準を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
6	会計の基本構造 (2) 企業会計原則の趣旨と歴史を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
7	会計の基本構造 (3) 企業会計原則の一般原則を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
8	利益計算の基本原則 (1) 財産法と損益法を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
9	利益計算の基本原則 (2) 資産負債観と収益費用観を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 90分	
10	現金・預金と金銭債権の会計 (1) 現金・預金の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
11	現金・預金と金銭債権の会計 (2) 金銭債権の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
12	有価証券の会計 (1) 有価証券の意義と分類を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
13	有価証券の会計 (2) 有価証券の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
14	棚卸資産の会計 (1) 棚卸資産の意義と範囲を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
15	棚卸資産の会計 (2) 棚卸資産の会計処理を解説する。					事前：テキストの該当箇所を予習する 事後：テキストで授業の復習をする		講義 70分 設例の計算 20分	
教 本： 上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社					参 考 文 献： 上野清貴著『財務会計の基礎（第5版）』中央経済社				
成績評価の方法、評価基準： 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 I (Accounting I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑 原 常 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 會計学では、会計学全般（簿記・財務会計・原価計算・経営分析）に及ぶ知識を習得することを目的として講義する。会計学 I では、簿記・財務会計について解説する。履修前提として、簿記原理 I ・ II を履修していることが望ましい。また、連続科目として、会計学 II を履修することが望ましい。									
授 業 目 標 : 簿記・財務会計の知識を習得することを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	簿記一巡の手続き 簿記一巡の手続きについて復習を兼ねて解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	勘定科目の分類 構成要素・勘定科目の分類について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
3	簿記 1 (試算表の作成) 演習をとおして一巡の手続きや科目の分類について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
4	簿記 2 (精算表・財務諸表の作成) 前回到続いて、一巡の手続きや科目の分類について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
5	小括 第 4 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	財務会計の機能と制度 財務会計の機能と制度会計について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
7	財務諸表と利益計算 財務諸表間の特徴と利益計算について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
8	企業会計原則 一般原則等の企業会計原則について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
9	利益測定と資産評価 資産評価の基準について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
10	小括 第 6 回から第 9 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	貸借対照表 (連結を含む) 貸借対照表の表示・区分等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
12	損益計算書 (連結を含む) 損益計算書の表示・区分等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
13	キャッシュ・フロー計算書 (連結を含む) キャッシュ・フロー計算書の表示・区分等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
14	株主資本等変動計算書 (連結を含む) 株主資本等変動計算書の特徴について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
15	小括 第 11 回から第 14 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 : 柳 田 仁 [編 著] 『会 計 の 基 礎 ハ ン ド ブ ッ ク』、第 3 版、創 成 社。					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 I (Accounting I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 會計学 I ・ II では、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めるようにする。									
授 業 目 標 : 會計学 I では、会計の意義、制度会計、公準・基準、資産会計について理解することを目標にする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	会計の意義と役割 会計の意義と役割、会計の分類等について解説する。					事前：テキスト1-15頁 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	会計規範の形成と体系 原則や概念フレームワーク等について解説する。					事前：テキスト15-30頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
3	制度会計 1 (会社法会計) 会社法による会計について解説する。					事前：テキスト31-42頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
4	制度会計 2 (金融商品取引法会計 ・ 税務会計) 金融商品取引法と税法による会計について解説する。					事前：テキスト43-56頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
5	問題演習 1 第 1 回 から 第 4 回 までの 理 解 度 を みる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	会計公準と企業会計原則 会計公準と企業会計原則について解説する。					事前：テキスト57-66頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
7	一般原則 1 (真 実 性、正 規 の 簿 記、資 本 取 引 ・ 損 益 取 引 区 分) 一般原則 (一 から 三) に つ い て 解 説 す る。					事前：テキスト67-87頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
8	一般原則 2 (明 瞭 性、継 続 性、保 守 主 義、単 一 性、重 要 性) 一般原則 (四 から 七、注 1) に つ い て 解 説 す る。					事前：テキスト88-100頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
9	貸借対照表原則 貸借対照表に関連する原則と基礎概念について解説する。					事前：テキスト101-124頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
10	問題演習 2 第 6 回 から 第 9 回 までの 理 解 度 を みる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	資産会計 1 (現 金 預 金、債 権、有 価 証 券) 現金預金、債権、有価証券にかかる処理について解説する。					事前：テキスト125-149頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
12	資産会計 2 (棚 卸 資 産) 棚卸資産にかかる処理について解説する。					事前：テキスト150-170頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
13	資産会計 3 (有 形 固 定 資 産、無 形 固 定 資 産) 有形固定資産、無形固定資産にかかる処理について解説する。					事前：テキスト171-192頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
14	資産会計 4 (減 損、繰 延 資 産) 減損の処理、繰延資産にかかる処理について解説する。					事前：テキスト193-208頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
15	問題演習 3 第 11 回 から 第 14 回 までの 理 解 度 を みる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 : 八 田 進 二、橋 本 尚 『 財 務 会 計 の 基 本 を 学 ぶ 』 (最 新 版)、同 文 館。					参 考 文 献 : 適 宜、指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト (20%)、定 期 試 験 (80%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 II (Accounting II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 野 清 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I 簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 会 計 学 II で は、主 と し て 会 計 学 の 各 論 を 解 説 す る。具 体 的 に は、有 形 固 定 資 産 の 会 計、無 形 固 定 資 産 と 投 資 そ の 他 の 資 産 の 会 計、繰 延 資 産 の 会 計、負 債 の 会 計、純 資 産 の 会 計、取 益 と 費 用 の 会 計 を 解 説 す る。最 後 に、財 務 諸 表 の 作 成 を 解 説 す る。									
授 業 目 標 : 会 計 学 II お よ び 前 の 会 計 学 I は、最 新 の 会 計 基 準 や 会 計 法 を 取 り 扱 い つ つ、会 計 の 意 義 か ら 考 察 を 初 め て、貸 借 対 照 表 お よ び 損 益 計 算 書 に お け る 各 項 目 の 会 計 処 理 を 全 般 的 に 理 解 し、会 計 手 続 の 最 終 段 階 で あ る 財 務 諸 表 を 正 式 に 作 成 で き る よ う に す る こ と を 目 標 と し て い る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	有 形 固 定 資 産 の 会 計 (1) 有 形 固 定 資 産 の 意 義 と 範 囲 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
2	有 形 固 定 資 産 の 会 計 (2) 有 形 固 定 資 産 の 減 価 償 却 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
3	無 形 固 定 資 産 と 投 資 そ の 他 の 資 産 の 会 計 (1) 無 形 固 定 資 産 の 意 義 と 範 囲 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
4	無 形 固 定 資 産 と 投 資 そ の 他 の 資 産 の 会 計 (2) 投 資 そ の 他 の 資 産 の 意 義 と 範 囲 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
5	繰 延 資 産 の 会 計 (1) 繰 延 資 産 の 意 義 と 範 囲 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
6	繰 延 資 産 の 会 計 (2) 繰 延 資 産 の 会 計 処 理 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
7	負 債 の 会 計 (1) 負 債 の 意 義 と 分 類 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
8	負 債 の 会 計 (2) 引 当 金 と 社 債 の 会 計 処 理 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
9	純 資 産 の 会 計 (1) 純 資 産 の 意 義 と 分 類 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
10	純 資 産 の 会 計 (2) 純 資 産 の 会 計 処 理 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
11	取 益 と 費 用 の 会 計 (1) 取 益 と 費 用 の 意 義 と 分 類 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
12	取 益 と 費 用 の 会 計 (2) 取 益 認 識 基 準 の 適 用 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 設 例 の 計 算 20 分	
13	財 務 諸 表 の 作 成 (1) 貸 借 対 照 表 と 損 益 計 算 書 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
14	財 務 諸 表 の 作 成 (2) 株 主 資 本 等 変 動 計 算 書 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
15	財 務 諸 表 の 作 成 (3) キ ャ ッ シ ュ ・ フ ロ ウ 計 算 書 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 90 分	
教 本 : 上 野 清 貴 著 『財 務 会 計 の 基 礎 (第 5 版)』 中 央 経 済 社					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 II (Accounting II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	桑 原 常 明								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II 会 計 学 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 会 計 学 で は、会 計 学 全 般 (簿 記 ・ 財 務 会 計 ・ 原 価 計 算 ・ 経 営 分 析) に 及 ぶ 知 識 を 習 得 す る こ と を 目 的 と し て 講 義 す る。会 計 学 II で は、原 価 計 算 ・ 経 営 分 析 に つ い て 解 説 す る。履 修 前 提 と し て、簿 記 原 理 I ・ II を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。ま た、連 続 科 目 と し て、会 計 学 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い。									
授 業 目 標 : 原 価 計 算 ・ 経 営 分 析 に つ い て 解 説 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	原 価 計 算 の 基 礎 原 価 計 算 の 流 れ を 中 心 に 解 説 す る。					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
2	費 目 別 計 算 費 目 別 計 算 に つ い て 解 説 し、問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
3	総 合 原 価 計 算 総 合 原 価 計 算 に つ い て 解 説 し、問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
4	標 準 原 価 計 算 標 準 原 価 計 算 に つ い て 解 説 し、問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
5	CVP 分 析 と 直 接 原 価 計 算 CVP 分 析 と 直 接 原 価 計 算 に つ い て 解 説 し、問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
6	個 別 原 価 計 算 個 別 原 価 計 算 に つ い て 解 説 し、問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
7	部 門 別 原 価 計 算 部 門 別 原 価 計 算 に つ い て 解 説 し、問 題 演 習 を 行 う。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
8	小 括 第 7 回 ま で の 理 解 度 を み る。					事 前 : 復 習 ノ ー ト の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		問 題 演 習 90 分	
9	経 営 分 析 の 基 本 経 営 分 析 に か か る 基 本 的 概 念 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 90 分	
10	百 分 率 財 務 諸 表 財 務 諸 表 の 構 成 比 を み る 百 分 率 財 務 諸 表 を 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
11	成 長 性 の 分 析 成 長 性 の 分 析 に 関 す る 指 標 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
12	安 全 性 の 分 析 安 全 性 の 分 析 に 関 す る 指 標 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
13	収 益 性 の 分 析 収 益 性 の 分 析 に 関 す る 指 標 に つ い て 解 説 す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
14	経 営 分 析 1 企 業 の 財 務 諸 表 を 使 っ て 実 際 に 経 営 分 析 を す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
15	経 営 分 析 2 第 14 回 に つ づ い て、企 業 の 経 営 分 析 を す る。					事 前 : 配 布 資 料 の 見 返 し 事 後 : 復 習 ノ ー ト の 作 成		講 義 30 分 問 題 演 習 60 分	
教 本 : 柳 田 仁 [編 著] 『会 計 の 基 礎 ハ ン ド ブ ッ ク』、第 3 版、創 成 社。					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。授 業 妨 害 に な る こ と を し な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	会 計 学 II (Accounting II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 會計学Ⅰ・Ⅱでは、財務会計について取り扱う。財務会計は、企業が、外部の利害関係者に対して財務諸表等の財務情報を報告する会計領域である。企業の作成する財務諸表に対する理解を深めるようにする。									
授 業 目 標 : 會計学Ⅱでは、負債会計、純資産会計、損益計算書、連結財務諸表について理解することを目標にする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	會計学Ⅰのおさらい 前期に扱った内容について振り返りをする。					事前：前期復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	負債会計1 (金銭債権、引当金、退職給付) 金銭債権、引当金、退職給付にかかる処理について解説する。					事前：テキスト209-228頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
3	負債会計2 (資産除去債務) 資産除去債務にかかる処理について解説する。					事前：テキスト229-240頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
4	純資産会計 純資産の区分、株主資本等変動計算書等について解説する。					事前：テキスト241-256頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
5	問題演習1 第2回から第4回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	損益計算書原則 損益計算書に関連する原則と基礎概念について解説する。					事前：テキスト257-276頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
7	収益・費用会計1 (収益認識基準) 収益認識基準について解説する。					事前：テキスト277-289頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
8	収益・費用会計2 (費用の認識・測定) 費用の認識と測定について解説する。					事前：テキスト290-296頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
9	収益・費用会計3 (研究開発費・内部利益) 研究開発費・内部利益等にかかる処理について解説する。					事前：テキスト297-308頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
10	問題演習2 第6回から第9回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	連結財務諸表1 (連結財務諸表の基礎) 連携会計の基礎概念について解説する。					事前：テキスト309-320頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
12	連結財務諸表2 (連結貸借対照表、連結損益計算書) 連結貸借対照表、連結損益計算書について解説する。					事前：テキスト321-339頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
13	連結財務諸表3 (その他の連結財務諸表) その他の連結財務諸表について解説する。					事前：テキスト340-356頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
14	会計の国際的動向 アメリカ (FASB) や IASB に関することについて解説する。					事前：テキスト357-382頁 事後：復習ノートの作成		講義 80分 問題演習 10分	
15	問題演習3 第11回から第14回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 : 八田進二、橋本尚『財務会計の基本を学ぶ』(最新版)、同文館。					参 考 文 献 : 適宜、指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 小テスト・レポート (20%)、定期試験 (80%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電卓を用意すること (スマホなどの電卓は認めない)。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	外国史 (History of the World)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	伊藤 幹彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：基礎的な外国史。授業の内容：1. アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学びの学習法）型授業を通じて生きる力（自ら考えて問題を解決する力、他者を思いやる心＜感情の知性＞、健康の知・徳・体）を育む。インターアクションで自己肯定感を高める。2. 多角的で情熱的でアンケートで改善する学習者中心主義の授業。3. 知識+討論+思考=独創性開発。4. 成功哲学（信念をもち、努力すれば、必ず勉強はできるようになる）。5. わかりやすい。6. ICT（情報通信技術）でやる気にさせる。7. Albert Banduraの社会的学習理論の自己効力感（self-efficacy）の達成経験、言語的説得、代理体験、心理的情緒高揚で成績を高める。8. 夢（Dreams come true. 夢が叶う）と目標を達成させる。</p> <p>授業目標：基礎レベルの外国史。本授業のテーマは外国史（世界史）で基礎レベルの古代史、中世史、近世史、近代史、現代史のグローバル・ヒストリーである。グローバル・ヒストリーは、オリエント世界、地中海世界、南アジア世界、アメリカ世界、内陸アジア世界、東アジア世界、イスラーム世界、東南アジア世界、ヨーロッパ世界、アフリカ世界の異文化間の交流ネットワークである。到達目標は外国史をグローバル・ヒストリーとしてとらえ、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や外国文化尊重の大切さについての自覚を深めるようになることである。授業の目標：1. 外国史の歴史的な考え方ができるようにさせ、外国史の課題を追究させ、解決させ、平和で民主的な公民を育成させる。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p>									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	（基礎）外国史の目次の説明（古代史、中世史、近世史、近代史、現代史）をする。自己紹介をする。			事前：教本の目次の下読みをする。 事後：教本の目次をノートに書く。			講義説明 40分。 口頭 Q&A 10分。 アンケート 10分。自己紹介 30分。		
2	オリエントと地中海世界について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。			事前：オリエントと地中海世界の下読みをする。 事後：オリエントと地中海世界のポイントを書く。			講義説明 20分。 口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。		
3	アジアとアメリカの古代文明について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。			事前：アジアとアメリカの古代文明の下読みをする。 事後：アジアとアメリカの古代文明のポイントを書く。			講義説明 20分。 口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。		
4	内陸アジア世界と東アジア世界の形成について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。			事前：内陸アジア世界と東アジア世界の形成の下読みをする。 事後：内陸アジア世界と東アジア世界の形成のポイントを書く。			講義説明 20分。 口頭 Q&A 60分。 アンケート 10分。		
5	イスラーム世界について説明する。口頭 Q&A をする。アンケートをする。第1回小テストを行う。			事前：イスラーム世界の下読みをする。 事後：イスラーム世界のポイントを書く。			講義説明 30分。 小テスト 60分。		
6	ヨーロッパ世界について説明する。ディスカッションを行う。口頭 Q&A をする。			事前：ヨーロッパ世界の下読みをする。 事後：ヨーロッパ世界のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
7	内陸アジア世界と東アジア世界の展開について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：内陸アジア世界と東アジア世界の展開の下読みをする。 事後：内陸アジア世界と東アジア世界の展開のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
8	アジア諸地域の繁栄について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：アジア諸地域の繁栄の下読みをする。 事後：アジア諸地域の繁栄のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
9	近世ヨーロッパ世界の形成について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：近世ヨーロッパ世界の形成の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の形成のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
10	近世ヨーロッパ世界の展開について説明する。第2回小テストを行う。			事前：近世ヨーロッパ世界の展開の下読みをする。 事後：近世ヨーロッパ世界の展開のポイントを書く。			講義説明 30分。 小テスト 60分。		
11	近代ヨーロッパ・アメリカ世界について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：近代ヨーロッパ・アメリカ世界の下読みをする。 事後：近代ヨーロッパ・アメリカ世界のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
12	欧米における近代国民国家について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：欧米における近代国民国家の下読みをする。 事後：欧米における近代国民国家のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
13	アジア諸地域の動揺について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：アジア諸地域の動揺の下読みをする。 事後：アジア諸地域の動揺のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
14	帝国主義とアジアの民族運動について説明する。口頭 Q&A をする。			事前：帝国主義とアジアの民族運動の下読みをする。 事後：帝国主義とアジアの民族運動のポイントを書く。			講義説明 80分。 口頭 Q&A 10分。		
15	二つの世界大戦と冷戦と第三世界について説明する。（基礎）外国史のまとめをする。			事前：二つの世界大戦と冷戦と第三世界の下読みをする。 事後：二つの世界大戦と冷戦と第三世界のポイントをノートに書く。			講義説明 60分。 口頭 Q&A 20分。 アンケート 10分。		
<p>教本：木村靖二、佐藤次高、岸本美緒、油井大三郎、青木康、小松久男、水島司、橋場弦(著)『アナウンサーが読む聞く教科書 山川詳説世界史』、山川出版社、2017年、¥2,750。</p> <p>参考文献：川北稔、桃木至朗(監)、帝国書院編集部(編)、『最新世界史図説タペストリー十七訂版』、帝国書院、2019年、¥957。 世界史小辞典編集委員会(編)、『山川世界史小辞典(改訂新版)』、山川出版社、2011年、¥3,080。</p>									
成績評価の方法、評価基準：第15回目の授業時の期末試験（20%）、第1回小テスト（10%）、第2回小テスト（10%）、レポートや課題への参加や授業への寄与度などの平常点（60%）。									
<p>学生へのアドバイス： 私伊藤幹彦が、自己効力理論で授業を行い、学生は主体的に学習し、実力がつく。1. 外国史の知識（頭脳の知性）向上、2. 自己効力感（私はできるというプラス思考）向上、3. 人間力（力強く生きていく力、目標達成力）向上。毎回学生の皆さんにA4の紙を配り、アンケートとして、質問、意見、感想を書いて感想を書いてもらう。</p>									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	外 国 史 (History of the World)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	関 口 宏 道								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
「ヨーロッパとは何か」に関してヨーロッパの歴史家たちが語るところを理解する。事前に提供されている講義内容を各自で印刷して、事前に目を通しておくこと。授業中にスマートフォンを利用して各自で提示される項目を確認する。毎時間一つのテーマについて考えるので、授業後には概要をまとめる。									
授 業 目 標 :									
ヨーロッパ人の多くは、2001年9月11日のイスラム原理主義者のニューヨークへの攻撃を、アメリカのみならずヨーロッパの自由主義的信条への攻撃でもあったと受け止めている。そしてヨーロッパ人は、自分たちの文明への懐疑と自省を迫られている。一体、「ヨーロッパとは何か」。二度の世界大戦の反省の上に、国民国家体制を克服しようとして開始された実験、ヨーロッパ連合が揺らいでいる。我々はヨーロッパの根本的な精神、構造そして変化を理解してゆきたい。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ヨーロッパに関する基本的知識 ヒトラーとオットー・フォン・ハプスブルクとの闘い					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
2	ヨーロッパ不滅の価値とは何か					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
3	「ヨーロッパの遺産」—かくも遙かな、かくも身近な遺産 ヨーロッパ連合に向かわせたもの					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
4	ヨーロッパの遙かな基盤 (1)—汲めども尽きぬ泉 ギリシャ・ローマ時代 科学、哲学、法・政治体制					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
5	ヨーロッパの遙かな基盤 (2)—汲めども尽きぬ泉 ギリシャ・ローマ時代 科学、哲学、法・政治体制					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
6	カール、偉大なるヨーロッパ人か—仄暗き灯台					事前：プリントを読んでおく 事後：		講義 90分	
7	ヨーロッパ、その精神 (1)—多種多様だが和解を求める精神 中世の時代、十字軍、異端者迫害の時代、教育と学問の発展、法と自由の発見の時代					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
8	ヨーロッパ、その精神 (2)—多種多様だが和解を求める精神 十字軍、異端者迫害の時代、教育と学問の発展、法と自由の発見の時代					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
9	ヨーロッパ、その商業活動—無限の利益を求めて					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
10	ヨーロッパ、その国家の発明 国民国家の成立に向けて 多様性から統一へ向けて					事前：プリントを読んでおく 事後：		講義 90分	
11	世界に向けてのヨーロッパ理念—幸運なる共同体 宗教戦争、王朝間戦争の克服、啓蒙主義の時代 寛容、人権、思想の自由					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
12	ヨーロッパ人ナポレオン—半神の物語 フランス革命の促進者か独裁者か、ヨーロッパの統合思想、ナショナリズムの促進					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
13	戦争のヨーロッパ(1) 暴力の魔神 自壊に向かうヨーロッパ、第一次世界大戦					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
14	戦争のヨーロッパ(2) 暴力の魔神 自壊に向かうヨーロッパ、第二次世界大戦					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
15	ヨーロッパ人のヨーロッパ—未来への遙かなる道 ヨーロッパ連合への道					事前：プリントを読んでおく 事後：テーマ毎にまとめる		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
プリント使用					授業時間内に紹介する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
毎週提出の課題で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義の中で紹介される事項に関心を持って、積極的に調べる習慣をつけて欲しい。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	カウンセリング入門 (Introductory Counseling)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要： 私たちは人生の中で様々な問題に直面し、選択を迫られることがある。カウンセリングとは、このような誰でもが遭遇する進路選択や“心の健康”に関わる問題にアプローチし、援助する活動をいう。本講座では、カウンセリングの歴史的な背景や、様々な立場から生まれた理論及び技法（スキル）を習得し、よりよく生きるための「人間の心の健康」について考えていきたい。</p>									
<p>授業目標： 1. カウンセリングの意義や目的を理解し、実践への活用を考える。 2. 心理学を基盤としたカウンセリングの理論や技法（スキル）について習得し、人間発達における自身の問題解決（対処）や他者への援助について学んでいく。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	カウンセリングとは何か？－意義と目的					事前：シラバスの確認 事後：意義についてのまとめ		講義 70分 ディスカッション 20分	
2	カウンセリングの歴史－起源と発展					事前：資料を読む 事後：歴史についてのまとめ		講義 60分 振り返り 30分	
3	臨床心理学とカウンセリングの関係－心理療法とカウンセリング－					事前：資料を読む 事後：心理療法のまとめ		講義 60分 振り返り 30分	
4	カウンセリングの理論と技法 (1)－精神分析的カウンセリング①					事前：資料を読む 事後：精神分析理論のまとめ		講義 70分 振り返り 20分	
5	カウンセリングの理論と技法 (1)－精神分析的カウンセリング②					事前：資料を読む 事後：精神分析技法のまとめ		講義 30分 事例討議 60分	
6	カウンセリングの理論と技法 (2)－クライアント中心療法的カウンセリング①					事前：資料を読む 事後：来談者理論まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
7	カウンセリングの理論と技法 (2)－クライアント中心療法的カウンセリング②					事前：資料を読む 事後：来談者技法のまとめ		講義 30分 演習 60分	
8	カウンセリングの理論と技法 (3)－行動療法的カウンセリング①					事前：資料を読む 事後：行動療法理論まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
9	カウンセリングの理論と技法 (3)－行動療法的カウンセリング②					事前：資料を読む 事後：行動療法技法まとめ		講義 30分 事例討議 60分	
10	カウンセリングの理論と技法 (4)－認知行動療法①					事前：資料を読む 事後：認知行動理論まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
11	カウンセリングの理論と技法 (4)－認知行動療法②					事前：資料を読む 事後：認知行動技法まとめ		講義 30分 事例討議 60分	
12	カウンセリングの理論と技法 (5)－プレイセラピー、箱庭療法、芸術療法					事前：資料を読む 事後：遊戯療法他まとめ		講義 40分 演習 50分	
13	カウンセリングの理論と技法 (6)－森田療法、内観法					事前：資料を読む 事後：森田療法他まとめ		講義 70分 振り返り 20分	
14	カウンセリングの理論と技法 (7)－家族療法、集団療法					事前：資料を読む 事後：集団療法他まとめ		講義 50分 演習 40分	
15	カウンセラーの資格と倫理－まとめ					事前：資料を読む 事後：本講義のまとめ		講義 70分 学習の評価 20分	
<p>教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。</p> <p>参考文献： 平木典子他編著 カウンセリングの基礎 北樹出版 ￥2,400</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（40%）、定期試験（30%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、グループ討議や単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらいたいこともある。積極的な授業への参加を希望する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義						
授業科目(英文)	家族心理学 (Psychology of Family)						科目分類	専門科目							
担 当 教 員	水本 深喜														
履 修 条 件	前提科目	なし													
	その他	なし													
<p>授業概要： 個人の「こころ」は、その家族の歴史、現在の家族関係と切り離して考えることはできない。本講義では、個人を家族との関係から捉え、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じうる家族メンバーの相互作用や心理臨床的問題、支援法を学ぶ。</p> <p>授業目標： 本講義の目標は、個人を家族との関係から理解し、支援するための基礎的な知識を得ることである。これにより、心理臨床の場における支援対象者の理解・支援の手がかりを得ることができる。さらに、身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について心理学の理論に基づいて考えていくことは、他者理解のみでなく自己理解を深めることにも繋がる。と期待される。</p> <p>カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">知識・技能の習得</td> <td style="width:33%;">思考力・判断力・表現力の育成</td> <td style="width:33%;">学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">◎</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> </tr> </table>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	◎	○	
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養													
◎	○														
授業計画、事前学習・事後学習、形式															
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態							
1	オリエンテーション、ジェノグラム					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 40分、 グループワーク 50分							
2	家族システム理論					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
3	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
4	独身の若い成人期、結婚による家族の成立期					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
5	家族をシステムから捉え、家族の問題を考える					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
6	小学生の子ども、若者世代とその家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
7	自立とは？ 親からの精神的自立					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
8	老年期の家族					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
9	家族への臨床的アプローチ					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
10	リフレーミング					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
11	夫婦関係の危機と援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
12	児童虐待					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
13	家族が経験するストレスと援助					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
14	現代の家族の問題（発表会）					事前：資料確認・課題検討 事後：講義内容を自分や周囲の家族と結びつけて考える		講義 50分、 グループワーク 40分							
15	事例検討：不登校の事例					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義							
<p>教本： 平木典子『家族の心理—家族への理解を深めるために』 第2版 サイエンス社</p>					<p>参考文献： 中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』有斐閣ブックス</p>										
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、テスト（50%）で総合評価する。</p>															
<p>学生へのアドバイス： 講義には、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。</p>															
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>															

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	家 族 法 (Family Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 地 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 I / 私 法 学 II / 物 権 法							
	そ の 他								
授 業 概 要 : 本講義では、民法第四編親族を中心に講義を行ないます。親族法の基礎理論、婚姻、離婚、親子、養子、扶養等を中心に親族法が主要なテーマとなります。これらを学習することを通して、法学的な客観的視点で事象を分析し、問題を発見する能力、論理的思考力を養うことを目的としています。									
授 業 目 標 : 親族法の基本的な知識を習得し、ならびに親族法の主要な法律問題を説明できるようになること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	オリエンテーション			事前：なし 事後：配布資料の見直し			講義 60分 質疑応答 30分		
2	家族法総論			事前：日本の家族法の特徴について調べる。 事後：日本の家族法の特徴、紛争解決手続をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
3	婚姻 (1) 総説/婚姻の効果 (1) 人格の効果			事前：婚姻の効果について調べる。 事後：婚姻の効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
4	婚姻 (2) 婚姻の効果 (2) 財産上の効果			事前：婚姻による財産上の効果について調べる。 事後：婚姻による財産上の効果についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
5	婚姻 (3) 婚姻の成立 (1) 実質的要件一意思の合致/婚姻意思の内/意思の存在期間/婚姻届作成後の翻意			事前：婚姻成立の実質的要件について調べる。 事後：婚姻届作成後の翻意についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
6	婚姻 (3) 婚姻の成立 (2) 実質的要件一適齢に達したこと/重婚でないこと/再婚期間禁止を過ぎていることなど			事前：再婚禁止期間について調べる。 事後：婚姻成立の実質的要件の諸問題をまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
7	離婚 (1) 総説/現代離婚法の争点			事前：婚姻の解消原因について調べる。 事後：日本の離婚の要件についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
8	離婚 (1) 離婚の方法 (1) 協議離婚			事前：協議離婚について調べる。 事後：協議離婚についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
9	離婚 (2) 離婚の方法 (2) 裁判離婚			事前：裁判離婚について調べる。 事後：日本の裁判離婚の特徴についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
10	親子 (1) 嫡出子/非嫡出子			事前：嫡出子/非嫡出子について調べる。 事後：嫡出子/非嫡出子の問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
11	親子 (2) 親子の効果			事前：親権とは何かを調べる。 事後：親権の内容/要件/終了についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
12	養子 (1) 養子制度/成立/縁組の無効・取消			事前：養子制度の概要について調べる。 事後：養子の成立/縁組の無効・取消しについてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
13	養子 (2) 縁組の効果/離縁/特別養子			事前：縁組の効果について調べる。 事後：特別養子縁組についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
14	扶養			事前：扶養法の問題点について調べる。 事後：扶養の諸問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
15	氏と戸籍			事前：氏と戸籍の関係について調べる。 事後：夫婦の氏の問題についてまとめる。			講義 60分 ディスカッション 30分		
教 本 : とくになし (資料を配布します)。						参 考 文 献 : 授業中に適宜指示します。			
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 法学は複雑な現代社会をひもとき、理解するための一つの道具でもあります。日常的に社会の問題に目を配り、何が問題なのかを考えるために、法学を自分の分析の道具としてもらいたいと思います。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	神 奈 川 文 化 論 (Cultural Analysis of KANAGAWA)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学 ・ 川 添 裕 子 ・ 増 田 裕 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	1 回 目 か ら の 出 席 を 履 修 の 条 件 と す る。							
授 業 概 要 : 神 奈 川 県 の 文 化 に つ い て 多 様 な 視 点 か ら 考 察 す る 。 本 授 業 は 担 当 教 員 ご と の オ ム ニ バ ス 形 式 の 授 業 で あ る 。 授 業 内 容 及 び 計 画 欄 の () が 担 当 教 員 で あ る 。									
授 業 目 標 : 神 奈 川 県 及 び 県 内 各 地 に つ い て の 歴 史 ・ 文 化 等 に つ い て 多 角 的 に 学 修 す る こ と に よ り 、 神 奈 川 県 や 市 町 に お け る 今 後 の よ り 良 き 文 化 の 形 成 の た め の 基 礎 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	神 奈 川 県 と 市 町 の 概 要 (古 賀) : 神 奈 川 県 の 現 状 を 行 政 的 視 点 か ら 理 解 す る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
2	神 奈 川 の 地 理 と 地 域 資 源 (古 賀) : 神 奈 川 県 の 地 域 資 源 の 位 置 と 内 容 か ら 神 奈 川 県 の 文 化 空 間 の 構 造 を 理 解 す る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
3	か な が わ の 温 泉 文 化 (古 賀) : 神 奈 川 県 の 温 泉 文 化 に つ い て そ の 歴 史 と 現 状 な ど に つ い て 理 解 す る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
4	か な が わ の 宿 場 文 化 (古 賀) : 江 戸 時 代 の 東 海 道 を 中 心 と す る 別 荘 文 化 の 変 容 過 程 に つ い て 理 解 す る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
5	か な が わ の リ ゾ ー ト 文 化 (古 賀) : 湘 南 海 岸 、 鎌 倉 な ど 湘 南 海 外 を 中 心 と す る 別 荘 や 海 水 浴 場 文 化 に つ い て 理 解 す る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
6	か な が わ の 飲 食 文 化 (古 賀) : 神 奈 川 県 内 の 地 場 産 品 や 食 文 化 に つ い て 理 解 す る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
7	地 元 の 歴 史 を 学 ぶ : 山 伏 (や ま ぶ し) の 里 と あ つ ぎ (川 添)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
8	地 元 の 文 化 資 源 を 学 ぶ : 小 野 小 町 伝 説 、 里 山 、 あ つ ぎ (川 添)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
9	街 づ くり を 考 え る : 相 模 原 の 軍 都 計 画 、 百 貨 店 、 そ し て (川 添)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
10	多 様 性 に つ い て 考 え る : 隣 の 外 国 人 (川 添)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
11	厚 木 の 歴 史 と 文 化 財 (縄 文 時 代 ~ 古 墳 時 代) (増 田)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
12	厚 木 の 歴 史 と 文 化 財 (古 代 ~ 中 世) (増 田)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
13	厚 木 の 歴 史 と 文 化 財 (近 代 ~ 現 代) (増 田)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
14	厚 木 の 歴 史 と 文 化 財 (文 化 財) (増 田)					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
15	神 奈 川 の こ れ か ら の 文 化 形 成 (古 賀) : 神 奈 川 県 に お け る こ れ か ら の よ り 良 き 文 化 の あ り 方 に つ い て 考 え る 。					事 前 : テ ー マ 関 連 資 料 の 収 集 事 後 : テ ー マ の 探 求		講 義 75 分 小 テ ス ト 15 分	
教 本 : 適 時 資 料 を 配 布					参 考 文 献 : 講 義 に お い て 適 宜 支 持				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 (20%) 、 小 テ ス ト 等 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 3 名 の 担 当 教 員 で 行 う オ ム ニ バ ス 授 業 た め 講 義 形 式 、 実 施 順 等 の 変 更 が あ る こ と も あ る 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 各 講 義 担 当 教 員 よ り 伝 え る 。 授 業 全 体 に 関 す る こ と は 古 賀 ま で 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	体で遊ぶ(身体表現)(Physical Expression)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 リヨ								
履 修 条 件	前提科目	特になし							
	その他	特になし							
授業概要： 領域「表現」のねらい、身体表現の指導に関する幼児の表現や発達段階、身体能力を理解するとともに、幼児の多様な身体表現・遊び・環境構成など、保育者としての専門的知識や表現力を身に付ける。									
授業目標： 保育者を目指す学生自身の身体表現力を高めるとともに、現場での身体表現活動に関する基礎知識を理解し、演習や発表を通して現場で活かせる技能の習得を目指す。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（授業の進め方、評価方法の説明、自己紹介）					事前：シラバスの確認 事後：友達の自己紹介を覚えておく		講義 40分、実技 50分	
2	領域「表現」について（ねらいと内容）					事前：領域「表現」を読む 事後：ねらいと内容を復習		講義 60分、 グループワーク 30分	
3	身体表現について（様々な歩き方）					事前：身体表現の経験を振り返っておく 事後：様々な歩き方について理解する		講義 20分 実技 70分	
4	遊びと身体表現（手あそびや身体遊び）					事前：手あそびについて調べる 事後：振り返りをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
5	遊びと身体表現（いろいろなじゃんけん）					事前：じゃんけんの種類を調べる 事後：振り返りをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
6	遊びと身体表現（歌に合わせて）					事前：遊びうたについて調べておく 事後：振り返りをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
7	変身を楽しむ表現（動物ごっこ、忍者ごっこ）					事前：動物の動きを調べておく 事後：動きをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
8	保育者にふさわしい体づくり（様々な動きと表現）					事前：動きの種類を調べておく 事後：様々な動きをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
9	保育者にふさわしい体づくり（様々なリズムの動き）					事前：リズムについて調べておく 事後：リズムの動きをノートにまとめる		講義 20分 実技 70分	
10	身体表現の作品創作（グループごとに創作活動）					事前：学んだ動きを予習しておく 事後：創作した内容を復習しておく		講義 10分、 グループワーク 80分	
11	身体表現の作品創作（グループごとに発表）					事前：創作した内容を予習しておく 事後：実践したものをノートにまとめる		講義 10分、 グループワーク 80分	
12	領域「表現」の内容を踏まえたパラバルーンの使い方を学ぶ					事前：パラバルーンについて調べておく 事後：基本的な扱いについて復習する		講義 20分 実技 70分	
13	身体表現の創作活動（運動会集団演技：パラバルーン使用）					事前：創作した内容を予習しておく 事後：創作した動きを復習しておく		講義 10分、 グループワーク 80分	
14	身体表現の創作の作品発表（パラバルーン）					事前：創作した内容を予習しておく 事後：発表の成果と課題をまとめる		講義 10分、 グループ発表 80分	
15	保育者の役割と授業のまとめ					事前：これまでの授業、演習を振り返る 事後：表現活動に関して意識する		講義 60分、 討論 30分	
教本： 特になし。適宜プリントを配付する					参考文献： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（いずれも最新版）				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（50%）、表現創作と発表（30%）、レポート課題（20%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 講義と演習の科目である。主体的かつ積極的に参加する意欲が求められる。グループワークも多く、コミュニケーション力も大切となる。体育館シューズ及び運動着が必要。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論 I (Environment Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 近年、地球規模での環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてそれに対する対応が急務になっている。観光産業・観光学領域においても、その傾向が認められ、「持続可能観光(sustainable tourism)」というタームが確立しつつある。本講義においては、観光学領域における「環境とマネジメント」の基礎として持続可能観光を論ずる。また、環境と観光(観光行動)の相互依存関係(相互浸透関係)を論じ、観光マネジメント領域の「持続可能性」を説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能性、観光行動、人間・環境系であり、講義は、「課題解決を目指すPBL的要素」を加えて実施する。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。									
授業目標： (1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 「持続可能観光」に関し環境マネジメントを通し理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	環境概念の変遷 (1)「人間と環境の関係性について説明します」(人間・環境系において)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
3	環境概念の変遷 (2)「具体的に種々な環境について説明します」(自然・社会環境領域において)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
4	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (1)(観光学の特殊性について、Morley(1990)、Leiper(1990))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
5	観光領域の中での環境マネジメントの位置づけ (2)(旅行システムに関する考察、Mill & Morrison(1985))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
6	持続可能性の定義と各領域での応用 (1)(自然科学領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
7	持続可能性の定義と各領域での応用 (2)(社会経済学領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
8	観光学における持続可能性の定義(sustainable tourismの定義を巡って)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
9	持続可能観光と環境・観光マネジメント (1)(Eco tourism, Responsible tourismなどを巡って)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
10	持続可能観光と環境・観光マネジメント (2)(観光行動「環境配慮行動等について」)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
11	持続可能観光と環境・観光マネジメント (3)(環境・観光マネジメント領域での課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
12	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (1)(観光行動、観光マーケティングを通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
13	わが国の環境政策史と観光産業の形態 (2)(環境・観光マネジメントを中心に)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
14	マスツーリズムとサステイナブルツーリズム(その対比と持続可能観光における意味)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
15	まとめ					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 特に指定しない。毎回資料を配布する。					参考文献： 適時、指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 環境マネジメントに関する観光学からのアプローチです。基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	環境経営論 I (Environment Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小林 克								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 地球温暖化が進み、化学物質や放射能汚染等の環境汚染が深刻化し、地球環境は危機的な状況にある。こうした状況をもたらしたのは人類の活動、とりわけ20世紀後半以降の工業化の進展と、企業活動である。それを理解した上で、今後の企業経営では、収益性だけでなく環境保護を両立させていく経営が必要不可欠であり、そうした取り組みが環境経営として進行中である。									
授業目標： 環境問題の現状と課題について理解する。 企業の環境経営の必要性とその具体的方法や現状の基礎を把握する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス。授業の概要と進め方、評価方法の説明					事前：シラバスの読み込みと確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、発表（20分）	
2	環境経営とは何か。環境問題の現状と環境経営の概念と概要について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、小テスト（10分）	
3	地球環境問題と人類の歴史。大型動物の絶滅や古代文明の森林破壊から産業革命以後の環境破壊の拡大					事前：指定の参考文献で用語の確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、 ディスカッション（20分）	
4	環境問題の確認と課題①。公害と高度経済成長。日本の戦後経済成長に伴う各地の公害問題					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、小テスト（10分）	
5	環境問題と企業の責任。消費者の在り方とともに企業の経済活動が環境問題の原因である					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、発表（20分）	
6	環境問題の確認と課題②。様々な環境問題の発生と対応。地球温暖化、オゾン層の破壊					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、発表（20分）	
7	環境問題の確認と課題③。様々な環境問題の発生と対応。熱帯雨林の減少、酸性雨、生物多様性の減少等					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、発表（20分）	
8	環境問題の確認と課題④。ヒートアイランド現象。都市部以外にも拡大するヒートアイランド現象					事前：指定の参考文献で用語の確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（70分）、発表（20分）	
9	環境問題の確認と課題⑤ 環境リスク(化学物質)。化学物質の広がりとその脅威、対策について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、小テスト（10分）	
10	環境問題の確認と課題⑥ 各種事故の事例。原子力発電所、化学工場、船舶等。レポート課題の説明					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（80分）、小テスト（10分）	
11	環境経営ビジネス。環境ビジネスとはどういうものか、その市場と農林業との関係や成長要因について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（60分）、 ディスカッション（30分）	
12	環境配慮製品・サービスの市場。環境負荷削減の指標やグリーン購入法の環境効果について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（60分）、 小レポート作成（30分）	
13	持続可能な環境クラスター。環境保全型ツーリズムの拡大と持続可能な環境クラスター					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（60分）、 小レポート作成（30分）	
14	環境経営の事例研究② 企業や地域の取り組み事例					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義（60分）、 ディスカッション（30分）	
15	まとめ。講義全体の感想と議論。レポート提出					事前：レポートのまとめ 事後：配布資料の内容確認		講義（45分）、 ディスカッション（45分）	
教本： 足立辰雄『環境経営を学ぶーその理論と管理システムー』日科技 其の都度提示します。 連¥2,700+税 他に適宜資料プリントを配布。					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教本や配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそれから出題します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	環 境 経 営 論 II (Environment Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>近年、地球規模での環境問題がクローズアップされ、各々の産業セクター・研究領域においてその対応が急務になっている。観光産業・観光学領域においても、その傾向が認められ「持続可能観光(sustainable tourism)」という研究領域が確立しつつある。本講義においては、観光学領域における「環境とマネジメント」の基礎を論じ、持続可能観光の具体的諸相と環境マネジメントの基礎について実務的側面を含め説明する。当該講義のキーワードは、環境マネジメント、持続可能観光、持続可能性に関わる評価システムである。講義を展開するにあたり、持続可能性を巡り「ダイバート・ディスカッション」を頻繁に行い講義の理解を深める。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 環境マネジメントの概念と実例を理解する。 (2) 持続可能性に関し観光領域から「持続可能観光」を通して理解する。 (3) 持続可能性の評価について「評価システム」を通して理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	環境・観光マネジメントと持続可能性 (1) (自然・工学領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	環境・観光マネジメントと持続可能性 (2) (社会経済領域)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ダイバート・ディスカッション20分	
4	環境負荷とその課題 (1) (わが国の環境科学の現状と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	環境負荷とその課題 (2) (国連会議、地球サミット等を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	キャリング・キャパシティー (carrying capacity) について					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	持続可能観光という概念の誕生とその時系列的分析 (英国の事例を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	持続可能観光における「持続可能性」に関する理論的根拠 (持続可能性という概念の理解を巡って)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ダイバート・ディスカッション20分	
9	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル (1) (観光目的地環境の発展・衰退等の時系列的分析を説明) Tourist area cycle of evaluation (Butler (1980)) による					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	観光目的地の持続可能性についての概念的モデル (2) (持続可能な環境・観光マネジメントへの応用と限界について説明) (Butler (1980)) による					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 (観光学領域の側面から)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ダイバート・ディスカッション20分	
12	持続可能観光領域のステークホルダーの多様性とその役割 (環境マネジメント領域の側面から)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例 (1) (その具体的事例：DIT-Acheiv Model 等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	持続可能な観光マネジメントのための指標システムの事例 (2) (多様な指標群のなかでの環境・マネジメントの役割と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教 本 :			参 考 文 献 :						
指定しない。			講義に際し適時、指示する。 Bulter, R. (1980). The concept of a tourist area cycle of evolution. <i>Canadian Geographer</i> , 25, 5-12.						
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
環 境 マ ネ ジ メ ン ト に 関 す る 観 光 学 か ら の ア プ ロ ー チ で す。基 礎 的 な 内 容 を 具 体 的 に 丁 寧 に 説 明 し ま す。実 践 的 な 内 容 を 含 む ま す の で、今 後 の 学 修 に 役 立 て て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	環 境 経 営 論 II (Environment Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 林 克								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
地球環境が危機的な状況にあるなかで、企業等の持続可能な発展 (SDGs) をめざした環境経営について解説する。具体的には CSR (企業の社会的責任)、ESG (環境・社会的ガバナンス)、環境会計、環境報告書などを紹介しつつ、環境経営の意義、現状、評価方法等についての企業の取組例を交えて分かりやすく説明する。									
授 業 目 標 :									
環境問題の現状と企業の取り組みについて理解する。 企業の環境経営の具体的方法や評価について理解し、今後の環境経営の必要性を認識し、その方向性について考えられるようになる。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の概要と進め方、評価方法の説明					事前：シラバスの読み込みと確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (90分)	
2	今日の環境問題と持続可能な社会の実現 (SDGs)。持続可能な社会のためのビジョンと環境経営					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
3	地球温暖化対策と企業経営。京都議定書からパリ協定へ。最近の COP21 パリ会議で決まったこと					事前：指定の参考文献で用語の確認 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (70分)、小テスト (20分)	
4	環境マネジメントシステム。国際規格と日本国内の動き。ISO14001について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
5	環境経営のビジョンと戦略、LCA。企業のビジョンと LCA のありかた、組織体制					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
6	環境経営の事例報告。具体的な各種企業の取組事例について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
7	交通事業と環境経営。自動車、鉄道、船舶、飛行機等の各種業界の取組と現状					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
8	温暖化対策と省エネルギー。各企業におけるエネルギー管理と省エネルギー機器					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
9	廃棄物の管理と削減。廃棄物の定義。各種法律と廃棄物管理とリサイクル。					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
10	化学物質の規制と管理。化学物質の規制の動向と法律。PRTAK の意義とシステム。					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
11	環境経営の事例研究。いくつかの企業の取組事例について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (60分)、 ディスカッション (30分)	
12	消費者と環境マーケティング。環境マーケティングとは何か、そして消費者の動向について					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
13	環境会計。環境会計とは何か。環境コストや物質コストからみた会計と環境保全コストと保全効果					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (70分)、 小レポート作成 (20分)	
14	環境報告書と CSR と格付け。環境報告書の定義と原則。CSR と環境格付けの歴史と現状					事前：教本で授業範囲を予習する 事後：配布資料とノートの内容確認		講義 (80分)、小テスト (10分)	
15	まとめ。授業全体の振り返りと、ディスカッション					事前：レポートのまとめ 事後：配布資料の内容確認		講義 (45分)、 ディスカッション (45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
足立辰雄『環境経営を学ぶーその理論と管理システムー』日科技					その都度提示します。				
連 ¥2,700+税 他に適宜資料プリントを配布。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (20%)、小テスト、レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
教本や配布する資料プリントで復習してください。小テスト、定期試験はそこから出題します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 英 語 I (English for Tourism I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
外国人観光客と接する際などによく使われる実用初級レベルの英語表現を修得する。場面ごとの会話練習により、実際の状況ですぐに使える英語表現を修得する。練習問題により、旅行・観光ビジネスで使われる実用初級レベルの英語の表現や用語を学ぶ。日本の観光地の説明が英語でできるよう、英文旅行案内書を利用し実用初級レベルの英語の表現を学ぶ。									
授 業 目 標 :									
国際旅行・観光で使われる実用初級レベルの英語表現を修得すること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授 業 の 進 め 方 と 授 業 概 要 の 説 明 (説 明 ・ 質 疑 応 答)					事 前 : な し 事 後 : 授 業 概 要 の 確 認		演 習 (説 明 45分、質 疑 応 答 45分)	
2	Conversation (At Hotel Front Desk) Task (練 習 問 題)					事 前 : な し 事 後 : 今 回 会 話 ・ task 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、task 45分)	
3	Conversation (At Hotel Front Desk) Reading English Guidebook (Imperial Palace, Ginza)					事 前 : 前 回 会 話 ・ task 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ 講 読 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、講 読 45分)	
4	Conversation (At Hotel Front Desk) Task (練 習 問 題)					事 前 : 前 回 会 話 ・ 講 読 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ task 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、task 45分)	
5	Conversation (At Hotel Front Desk) Reading English Guidebook (Ueno, Asakusa, Shinjuku)					事 前 : 前 回 会 話 ・ task 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ 講 読 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、講 読 45分)	
6	Conversation (Complaints/Problems) Task (練 習 問 題)					事 前 : 前 回 会 話 ・ 講 読 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ task 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、task 45分)	
7	Conversation (Complaints/Problems) Reading English Guidebook (Shibuya, Roppongi, Odaiba)					事 前 : 前 回 会 話 ・ task 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ 講 読 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、講 読 45分)	
8	Conversation (Hotel Services) Task (練 習 問 題)					事 前 : 前 回 会 話 ・ 講 読 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ task 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、task 45分)	
9	Conversation (Hotel Services) Reading English Guidebook (Disney Resort, Yokohama)					事 前 : 前 回 会 話 ・ task 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ 講 読 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、講 読 45分)	
10	Conversation (Going Out for a While) 小 テ ス ト (60分、範 囲 は 1 ~ 10 で 学 習 し た と ころ)					事 前 : 前 回 会 話 ・ 講 読 復 習 事 後 : 小 テ ス ト 自 己 採 点 ・ 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 30分、小 テ ス ト 60分)	
11	Conversation (Checking Out) Reading English Guidebook (Kamakura, Hakone, Mt. Fuji)					事 前 : 小 テ ス ト 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ 講 読 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、講 読 45分)	
12	Conversation (At Information Center) Task (練 習 問 題)					事 前 : 前 回 会 話 ・ 講 読 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ task 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、task 45分)	
13	Conversation (At Information Center) Reading English Guidebook (Izu, Kusatsu, Nikko)					事 前 : 前 回 会 話 ・ task 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ 講 読 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、講 読 45分)	
14	Conversation (At Information Center) Task (練 習 問 題)					事 前 : 前 回 会 話 ・ 講 読 復 習 事 後 : 今 回 会 話 ・ task 復 習		演 習 (ロ ー ル プ レ イ 45分、task 45分)	
15	Summary : 重 要 な ポ イ ン ト の 解 説 と 全 体 の ま と め (解 説 ・ 質 疑 応 答)					事 前 : 前 回 会 話 ・ task 復 習 事 後 : ま と め の 復 習		演 習 (解 説 45分、質 疑 応 答 45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教 科 書 は 使 用 し な い。プ リ ン ト を 配 付 す る。					適 宜、紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英 語 の 基 礎 を 修 得 し て い る こ と が 望 ま し い。毎 回 出 席 す る よ う 努 め よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 英 語 Ⅱ (English for Tourism Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	田 中 一 郎								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>“Welcome to Sawanoya, Welcome to Japan” (外国人旅行者を受け入れている日本旅館の奮闘記。英文) をテキストに用い、日本の文化や習慣を外国人旅行者に英語でどう説明したらよいか、外国人旅行者とどう接したらよいかなどを学ぶ。また、日本の文化や習慣を説明できる実用中級レベルの英語表現力、会話練習を通して修得する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国際旅行・観光で使われる、実用中級レベルの英語表現を修得すること。 2. 日本の文化や習慣を英語で外国人旅行者に説明できるようになること。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	Introduction : 授業の進め方と授業概要の説明 (説明・質疑応答) Reading (Sawanoya's Beginnings)					事前 : なし 事後 : 授業概要の確認、今回講読復習		演習 (説明 45分、講読 45分)	
2	Reading (Prosperous Days) Conversation (Rice and Miso Soup)					事前 : なし 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
3	Reading (Prosperous Days) Conversation (Rice and Miso Soup)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
4	Reading (A Decision) Conversation (Revolving Sushi Restaurant)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
5	Reading (Morning in the Dining Room) Conversation (Revolving Sushi Restaurant)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
6	Reading (Morning in the Dining Room) Conversation (Izakaya)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
7	Reading (No-Shows) Conversation (Izakaya)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
8	Reading (No-Shows) Conversation (Japanese Fast Food)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
9	Reading (Sawanoya Springs Back to Life) Conversation (Japanese Fast Food)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
10	Reading (Sawanoya Springs Back to Life) 小テスト (60分、範囲は1~10で学習したところまで)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 小テスト自己採点・復習		演習 (講読 30分、小テスト 60分)	
11	Reading (Self-Service) Conversation (Japanese Spas)					事前 : 前回講読・小テスト復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
12	Reading (Helping Overseas Guests) Conversation (Japanese Spas)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
13	Reading (Helping Overseas Guests) Conversation (Convenience Stores, etc)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
14	Reading (Warm and Welcoming) Conversation (Convenience Stores, etc)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : 今回講読・会話復習		演習 (講読 45分、ロールプレイ 45分)	
15	Summary : 重要なポイントの説明と全体のまとめ (解説・質疑応答)					事前 : 前回講読・会話復習 事後 : まとめの復習		演習 (解説 45分、質疑応答 45分)	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。プリントを配付する。					“Welcome to Sawanoya, Welcome to Japan” (Omega-Com, Inc.) 授業内容の理解を深めるため、購入を勧める。オンラインで購入可				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 英 語 の 基 礎 を 修 得 し て い る こ と が 望 ま し い。毎 回 出 席 す る よう 努 め よう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義・演習
授業科目(英文)	観光概論 (Introduction to Tourism)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古賀 学								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 観光学の体系、観光の成立要因と各要因の関係性、観光を学ぶために必要な用語とその意味・定義、観光の波及効果など、観光学の体系と観光の基礎につき修得する。									
授業目標： ①観光を深く学ぶために必要な基礎知識を修得する。 ②観光に関わる語句を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光学の体系：観光学を構成する学問体系と松蔭大学が目指す観光教育のあり方について修得する。					事前：専門科目について理解する 事後：自己の観光における学習体系を考察する。		ガイダンス・講義60分、 能力テスト30分	
2	観光の構造：観光の成立要因とその関係性を体系的に理解し、観光の定義について修得する。					事前：言語としての観光について考究する。 事後：観光の構成要因について整理する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
3	観光波及効果：観光現状における社会、地域、組織、住民等に与える影響について、文化・環境・経済などの視点から考察し、より良き観光振興の目指すべき方向について修得する。					事前：観光により発生する負の効果について考究する。 事後：観光のより良き効果の増大について整理する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
4	観光行動の発生と実現：観光の各発生要因の詳細及び発生の歴史的経緯を理解することにより、観光の実現化要因について修得する。					事前：自身がなぜ観光するのかについて考究する。 事後：観光という現象がなぜ起こるのかを整理する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
5	観光市場：観光の市場について、その分類と特徴、市場の変化について理解することにより、観光客の定義と特性について修得する。					事前：観光客とは何かについて考究する。 事後：観光とは何かについて整理する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
6	観光関連組織：行政、観光協会、民間観光関連事業者、地域住民など観光に関わる関連組織の特徴、事業内容、関連等について修得する。					事前：観光行政の政策内容について考究する。 事後：自身が目指すべき組織について考察する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
7	観光産業：観光活動に関わる産業（観光産業）の種類、特徴、現状及び観光産業の経営特性、サービス産業とホスピタリティ等について修得する。					事前：観光産業の種類について考究する。 事後：自身の職業としての観光産業について考察する、		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
8	観光旅行形態：マス・ツーリズム、体験型観光旅行、リゾート、ニューツーリズムなど旅行の変遷と形態について、その特徴について修得する。					事前：観光とリゾートの違いについて考究する。 事後：今後のより良き観光旅行形態について考察する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
9	観光地の構造：観光の目的地である観光地の空間構造及び変容について理解し、観光地のあるべき姿について修得する。					事前：どのような観光地があるのかを考究する。 事後：観光地の種類について体験的整理を行う。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
10	観光資源：観光資源の定義、種類及び地域資源、観光資源、観光対象、観光商品の差異・変化、観光資源の価値評価等について修得する。					事前：観光の目的となるモノ・コトについて考究する。 事後：地域資源の観光資源化について事例検証を行う		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
11	温泉：温泉資源の特性及び利活用と観光資源としての活用について温泉法及び温泉観光地の事例から学習する。					事前：温泉法を理解する。 事後：温泉の地域資源としてのあり方を考察する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
12	観光施設：観光客の目的対象、資源の補完、利便化等の役割を果たす観光資源の種類、特徴、集客力などの原単位、役割等について修得する。					事前：観光施設の事例について考究する。 事後：観光施設の役割について再考する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
13	宿泊施設：宿泊施設のISOによる定義・目的分類・部屋分類・料金分類及び日本における宿泊施設の許認可、サービスの内容等について修得する。					事前：経験から宿泊施設の問題点を考究する。 事後：今後の宿泊施設のあり方について再考する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
14	観光交通：アクセス及び観光地内観光交通の種類、特徴、現状、及び観光振興における自動車、箱根、軽井沢等の観光振興と交通機関との関係について修得する。					事前：小田急線と観光地の関係について考究する。 事後：観光地内交通体系のあり方について整理する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
15	観光情報：観光情報の仕組み、収集内容、情報媒体の特性等について修得する。					事前：自身の観光情報の活用状況について考究する。 事後：新たな観光情報提供媒体について考察する。		復習10分、講義70分、 理解度テスト10分	
教本： テキストは授業ごとにプリントを配布する。					参考文献： 適宜指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 定期試験及び平常点を加味する。									
学生へのアドバイス： 観光を構成する事柄について全般的に学ぶ授業です。自身の興味の方向を見出すつもりで受講してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。基本的には在席中いつでも可。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 経 営 論 (Tourism Management)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	白 澤 恵 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 概 論 I を 履 修 し て い る こ と が 好 ま し い							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 現 代 に お け る 観 光 経 営 の 意 義 に つ い て 触 れ、観 光 産 業 に つ い て 認 識 を 深 め る こ と を 前 提 に し て、観 光 の 歴 史、観 光 市 場 の 実 態 に つ い て 学 ぶ。									
授 業 目 標 : 観 光 経 営 と 地 域 観 光 や 観 光 事 業 と の 関 係 を 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン ・ 観 光 と は					事 前 : な し 事 後 : 1 ~ 2 頁 精 読		講 義 80 分 質 問 10 分	
2	観 光 の 意 義 と 関 連 概 念					事 前 : 57 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
3	観 光 現 象 と そ の 構 成 要 素					事 前 : 10 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
4	多 様 な 観 光 形 態					事 前 : 12 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
5	観 光 研 究 の 分 野					事 前 : 15 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
6	新 し い 観 光 の 考 え 方					事 前 : 16 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
7	観 光 研 究 の 対 象 と 方 法					事 前 : 18 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
8	観 光 教 育					事 前 : 22 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
9	観 光 研 究 ・ 教 育 の た め の 統 計 調 査 資 料					事 前 : 27 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
10	観 光 ・ 旅 行 者 の 分 類					事 前 : 31 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
11	多 様 な 観 光 ・ レ ジ ャ ー 行 動					事 前 : 33 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
12	観 光 者 の 行 動 と 心 理					事 前 : 35 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
13	観 光 需 要					事 前 : 9 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
14	観 光 調 査					事 前 : 40 頁 精 読 事 後 : 授 業 内 容 の ま と め		講 義 80 分 質 問 10 分	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : テ ス ト 範 囲 と 復 習		講 義 70 分 質 問 20 分	
教 本 : 白 澤 恵 一 著 『観 光 経 営』 高 文 堂 出 版 社					参 考 文 献 : 必 要 に 応 じ て 指 示 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 教 科 書 を 良 く 読 む こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経営論 I (Tourism Management I)						科目分類	専門科目	
担当教員	白澤 恵一								
履修条件	前提科目	経営学概論 I を履修していることが好ましい							
	その他	なし							
授業概要： 現代における観光経営の意義について触れ、観光産業について認識を深めることを前提にして、観光の歴史、観光市場の実態について学ぶ。									
授業目標： 観光経営と地域観光や観光事業との関係を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション・観光とは					事前：なし 事後：1～2頁精読		講義 80分 質問 10分	
2	観光の意義と関連概念					事前：57頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
3	観光現象とその構成要素					事前：10頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
4	多様な観光形態					事前：12頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
5	観光研究の分野					事前：15頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
6	新しい観光の考え方					事前：16頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
7	観光研究の対象と方法					事前：18頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
8	観光教育					事前：22頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
9	観光研究・教育のための統計調査資料					事前：27頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
10	観光・旅行者の分類					事前：31頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
11	多様な観光・レジャー行動					事前：33頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
12	観光者の行動と心理					事前：35頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
13	観光需要					事前：9頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
14	観光調査					事前：40頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 80分 質問 10分	
15	まとめ					事前：なし 事後：テスト範囲と復習		講義 70分 質問 20分	
教本： 白澤恵一著『観光経営』高文堂出版社					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等（30%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 教科書を良く読むこと。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光経営論Ⅱ (Tourism Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	白澤 恵一								
履修条件	前提科目	経営学概論Ⅱを履修していることが好ましい							
	その他	なし							
授業概要： 観光資源、観光地、観光開発などの概念について学び、各種宿泊業や観光交通、その他関連産業などについて学ぶ。 地域社会、地域文化、観光福祉、観光政策過程について検討する。									
授業目標： 観光産業の経営について具体的に学び、今後の観光経営について考える。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	観光対象としての観光資源・施設					事前：なし 事後：45頁精読		講義 70分 質問 20分	
2	観光資源の保護					事前：48頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
3	観光資源保護のための国際的取り組み					事前：54頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
4	多様な観光形態					事前：55頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
5	観光経営の概念について					事前：57頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
6	観光地の経営					事前：58頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
7	観光経営と地域社会					事前：64頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
8	観光経営のマーケティング					事前：66頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
9	観光産業の概念					事前：71頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
10	旅行業					事前：73頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
11	宿泊業					事前：76頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
12	交通業					事前：83頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
13	観光政策と主な観光関連法規					事前：91頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
14	観光政策過程の検討					事前：100頁精読 事後：授業内容のまとめ		講義 70分 質問 20分	
15	まとめ					事前：テスト範囲と復習 事後：授業内容のまとめ		講義 60分 質問 30分	
教本： 白澤恵一著『観光経営』高文堂出版社					参考文献： 必要に応じて指示する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光経営論Ⅰを取得していること。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 産 業 論 I (Tourism Industry I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深め、観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることにある。まず、観光産業の「観光領域での位置づけ」と各々の観光産業の事例と特徴を説明する。そして、「観光産業が扱う旅行（観光）商品の特性」について具体的に説明をする。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。講義は事例の分析などを「グループワーク」にて行い「プレゼンテーション」を通し展開する予定である。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 観光産業に関わる観光商品の特性を理解する。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	観光産業の特徴とその定義					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	観光学の中での観光産業の位置づけ (1) (需要・供給関係を主題に：Leiper(1990))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	観光学の中での観光産業の位置づけ (2) (旅行システム論を通して：Mill & Morrison(1985))					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	市場（需要サイド）における観光産業 (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	輸送（移動）における観光産業 (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	観光目的地（供給サイド）における観光産業 (1) (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	観光目的地（供給サイド）における観光産業 (2) (具体的な事例)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義50分、 プレゼンテーション30分	
9	観光産業における旅行商品の一般的特徴 (無形性、不均質性等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	観光産業に関わる旅行商品の特性 (1) (Tourism product の属性の束的性格)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	観光産業に関わる旅行商品の特性 (2) (Tourism product の4つの側面：アトラクション、設備、輸送、ホスピタリティー)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	旅行商品のライフサイクルモデルと観光産業 (ライフサイクル論の応用：Ryan(1991)の理解)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (1) (旅行商品の特性に関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	旅行商品の計画・立案における観光産業の各領域の論点 (2) (需要側、供給側等の対比を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義50分、 プレゼンテーション30分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布する。					適宜、紹介する。適時指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
多 様 性 を 有 す る 観 光 産 業 を 体 系 的 に 記 述 す る こ と を 心 掛 け、具 体 的 内 容 を 丁 寧 に 説 明 し ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光産業論Ⅱ (Tourism Industry Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 本講義の目的は、観光産業に関する基礎的な知識を修得し観光産業の果たす役割と今後の観光産業のあり方についての理解を深めることにより観光産業の振興を図る創造的な能力と態度を育てることをである。そのために、観光産業の「観光学の枠組みでの位置づけ」・「新たな観光産業の形態」や「観光産業とその他のセクターとの関係性」について講義をする。当該講義は、MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) や DMO (Destination management organization) に言及し、問題解決的学修 (PBL) に関する方法にて今後の観光産業の有り方を論ずる。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。									
授業目標： (1) 観光産業の分類や特性を理解する。 (2) 観光産業の具体的な内容を理解する。 (3) 新たな観光産業の形態や産業産業とその他のセクターとの融合や関係性について理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	観光学の枠組みにおける観光産業の位置づけと観光学のその他の領域との関連性 (Morley(1990)を中心に)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
3	「需要・移動・供給」における観光産業の特性と分類 (観光学における関連性に関して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
4	持続可能観光の伸長と観光産業の形態 (持続可能観光の具体的事例を通して)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
5	ニューツーリズムと旅行産業 (1) (その特性と課題)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
6	ニューツーリズムと旅行産業 (2) (ケーススタディー [自然資源を対象として])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
7	ニューツーリズムと旅行産業 (3) (ケーススタディー [歴史・文化資源を対象として])					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
8	MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (1) (意味と役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
9	MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (2) (MとIの概念、取り組み主体、業界、事例等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
10	MICE (Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition) (3) (CとEの概念、取り組み主体、業界構図、事例等)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
11	DMO (Destination management organization) (1) (ディスティネーションマネジメントとの意味と役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
12	DMO (Destination management organization) (2) (ディスティネーションマネジメントと資源管理)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
13	DMO (Destination management organization) (3) (観光産業振興・観光地計画への役割)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
14	今後の観光産業の課題とビジョン					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 必要に応じプリントを配布する。					参考文献： 適時指定する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 多様性を有する観光産業を体系的に記述することを心掛け、基礎的内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 社 会 学 (Sociology of Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 本 達 式								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : こ れ ま で の 観 光 の 潮 流 を 踏 ま え 、 現 代 社 会 に お け る 観 光 の 役 割 、 責 任 を 探 求 す る 。									
授 業 目 標 : 1. 観 光 が 社 会 に ど の よ う な 影 響 を 及 ぼ し て き て い る の か 理 解 す る 。 2. 観 光 の 社 会 的 意 義 に つ い て の 理 解 を 深 め る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス・観光社会学Iで学ぶことについて説明する。					事前：なし 事後：社会学的視点を考察		講義60分、質疑20分、感想コメント記入10分	
2	【観光地と観光客の関係】観光地と観光客、ホストとゲストの関係について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ホスト・ゲスト論下調べ 事後：住民と観光客の関係考察		講義80分、小テスト10分	
3	【観光地と観光客の関係】観光の社会関係システムについて解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光システムモデル下調べ 事後：観光の社会の関係考察		講義80分、小テスト10分	
4	【観光地と観光客の関係】観光が環境にもたらす影響と持続的な観光開発について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：環境保護と観光下調べ 事後：観光の弊害の考察		講義80分、小テスト10分	
5	【観光地と観光客の関係】観光の社会的責任について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：持続可能な観光基準下調べ 事後：持続的な観光の考察		講義80分、小テスト10分	
6	【観光地と観光客の関係】ツーリズムの変遷と関係性の変化について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：持続可能な観光指標下調べ 事後：持続的な観光の考察		講義80分、小テスト10分	
7	【観光地と観光客の関係】これまで学習してきた内容をもとに、グループディスカッションを行い、代表から発表を行う。					事前：ディスカッション準備 事後：発表内容の考察と批評		講義30分、ディスカッション40分、発表20分	
8	【社会と観光の変遷】明治から戦前までの社会と観光の動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：近代観光の始まり下調べ 事後：観光の普及と閉塞考察		講義80分、小テスト10分	
9	【社会と観光の変遷】戦後～高度経済成長～バブル崩壊までの社会と観光の動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：マストツーリズムの始まりの下調べ 事後：観光の成熟と衰退の考察		講義80分、小テスト10分	
10	【社会と観光の変遷】20世紀末から現在までの社会と観光の動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光の弊害の下調べ 事後：現代観光の立ち位置考察		講義80分、小テスト10分	
11	【社会と観光の変遷】これまで学習してきた内容をもとに、グループディスカッションを行い、代表から発表を行う。					事前：ディスカッション準備 事後：発表内容の考察と批評		講義30分、ディスカッション40分、発表20分	
12	【地域と観光の観察と発見】実際の調査事例をもとに、観光地の実態を把握する調査の種類と手法を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光調査手法の下調べ 事後：観光調査の目的、手法の考察		講義80分、小テスト10分	
13	【地域と観光の観察と発見】実際の調査事例をもとに、調査結果の読み方、観光地の実態の分析方法について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：調査結果の下読み 事後：調査結果の分析視点、方法の考察		講義80分、小テスト10分	
14	【地域と観光の観察と発見】今後の地域社会と観光に変化をもたらす、現在の動向(国際化、情報化、コロナ禍等)について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光の技術革新下調べ 事後：今後の社会と観光の変化の考察		講義80分、小テスト10分	
15	まとめ・これまでの学習及びディスカッションの内容をもとに、今後考えていくべきことをまとめる。					事前：配布プリントの再読 事後：今後の探求方向の考察		講義70分、小レポート20分	
教 本 : 各 回 プ リ ン ト 配 布					参 考 文 献 : 適 宜 紹 介				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (20%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%) 、 定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 の 社 会 的 意 義 を 学 ぶ 授 業 で す が 、 ま ず は 自 分 の 回 り で 起 こ っ て い る 身 近 な こ と な ど と 観 光 と の 関 わ り か ら 考 え て み て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 社 会 学 I (Sociology of Tourism I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	安 本 達 式								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : こ れ ま で の 観 光 の 潮 流 を 踏 ま え 、 現 代 社 会 に お け る 観 光 の 役 割 、 責 任 を 探 求 す る 。									
授 業 目 標 : 1. 観 光 が 社 会 に ど の よ う な 影 響 を 及 ぼ し て き て い る の か 理 解 す る 。 2. 観 光 の 社 会 的 意 義 に つ い て の 理 解 を 深 め る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス・観光社会学Iで学ぶことについて説明する。					事前：なし 事後：社会学的視点を考察		講義 60分、質疑 20分、 感想コメント記入 10分	
2	【観光地と観光客の関係】観光地と観光客、ホストとゲストの関係について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：ホスト・ゲスト論下調べ 事後：住民と観光客の関係考察		講義 80分、 小テスト 10分	
3	【観光地と観光客の関係】観光の社会関係システムについて解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光システムモデル下調べ 事後：観光の社会の関係考察		講義 80分、 小テスト 10分	
4	【観光地と観光客の関係】観光が環境にもたらす影響と持続的な観光開発について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：環境保護と観光下調べ 事後：観光の弊害の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
5	【観光地と観光客の関係】観光の社会的責任について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：持続可能な観光基準下調べ 事後：持続的な観光の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
6	【観光地と観光客の関係】ツーリズムの変遷と関係性の変化について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：持続可能な観光指標下調べ 事後：持続的な観光の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
7	【観光地と観光客の関係】これまで学習してきた内容をもとに、グループディスカッションを行い、代表から発表を行う。					事前：ディスカッション準備 事後：発表内容の考察と批評		講義 30分、ディスカッション 40分、発表 20分	
8	【社会と観光の変遷】明治から戦前までの社会と観光の動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：近代観光の始まり下調べ 事後：観光の普及と閉塞考察		講義 80分、 小テスト 10分	
9	【社会と観光の変遷】戦後～高度経済成長～バブル崩壊までの社会と観光の動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：マストツーリズムの始まりの下調べ 事後：観光の成熟と衰退の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
10	【社会と観光の変遷】20世紀末から現在までの社会と観光の動向について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光の弊害の下調べ 事後：現代観光の立ち位置考察		講義 80分、 小テスト 10分	
11	【社会と観光の変遷】これまで学習してきた内容をもとに、グループディスカッションを行い、代表から発表を行う。					事前：ディスカッション準備 事後：発表内容の考察と批評		講義 30分、ディスカッション 40分、発表 20分	
12	【地域と観光の観察と発見】実際の調査事例をもとに、観光地の実態を把握する調査の種類と手法を解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光調査手法の下調べ 事後：観光調査の目的、手法の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
13	【地域と観光の観察と発見】実際の調査事例をもとに、調査結果の読み方、観光地の実態の分析方法について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：調査結果の下読み 事後：調査結果の分析視点、方法の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
14	【地域と観光の観察と発見】今後の地域社会と観光に変化をもたらす、現在の動向（国際化、情報化、コロナ禍等）について解説する。その内容について小テストを行う。					事前：観光の技術革新下調べ 事後：今後の社会と観光の変化の考察		講義 80分、 小テスト 10分	
15	まとめ・これまでの学習及びディスカッションの内容をもとに、今後考えていくべきことをまとめる。					事前：配布プリントの再読 事後：今後の探求方向の考察		講義 70分、 小レポート 20分	
教 本 : 各 回 プ リ ン ト 配 布					参 考 文 献 : 適 宜 紹 介				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (20%) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%) 、 定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 の 社 会 的 意 義 を 学 ぶ 授 業 で す が 、 ま ず は 自 分 の 回 り で 起 こ っ て い る 身 近 な こ と な ど と 観 光 と の 関 わ り か ら 考 え て み て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 社 会 学 II (Sociology of Tourism II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	観 光 社 会 学 I (Sociology of Tourism I)							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 現代の社会における変動を様々な視点から見つめなおすことにより、これからの社会における観光の役割と方向を探求する。講義時の社会における観光現象をテーマとして取り上げるため本シラバスにおける授業計画は取り上げるテーマ例とする。									
授 業 目 標 : 1. 社会における観光の位置づけと役割について理解する。 2. 社会現象と観光との関係について理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	観光社会学に関する認識と観光と社会との関係の基本について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：余暇の現状について資料収集			ガイダンス・講義 60分、 能力テスト 30分	
2	【余暇社会と観光－1】余暇社会の流れと余暇社会の現状について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：休暇制度について資料収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
3	【余暇社会と観光－2】我が国の休暇制度と政策について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：観光における情報の関係について資料収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
4	【情報化社会と観光－3】情報化社会における観光の変容について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：出題時事についての情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
5	【観光に関する時事を読み解く－1】昨今の出来事を取り上げディスカッションしながらその本質を理解する。				事前：出題課題への対応 事後：サブカルチャーとは何かについて情報収集			講義 30分、 ディスカッション 60分	
6	【サブカルチャー社会と観光－1】サブカルチャー社会の現状と観光との関係について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：ロケ地の観光の現状について情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
7	【サブカルチャー社会と観光－2】映像文化の振興やロケ地域と観光との関係について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：アニメの舞台と観光の現状について情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
8	【サブカルチャー社会と観光－3】聖地巡礼としてのアニメと観光との関係について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：出題時事についての情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
9	【観光に関する時事を読み解く－2】昨今の出来事を取り上げディスカッションしながらその本質を理解する。				事前：出題課題への対応 事後：観光のマイナス効果について情報収集			講義 30分、 ディスカッション 60分	
10	【災害と観光－1】観光と危機管理：観光における危機管理の必要性、タイプ、その対応等について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：コロナ禍における観光対策について情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
11	【災害と観光－2】感染症(コロナ禍)と観光：新型コロナウイルスと観光への影響、今後の観光の方向等について学修する。				事前：出題課題への対応 事後：震災被災地の観光復興について情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
12	【災害と観光－3】東北大地震と観光復興：10年を経過した東北大地震の現状から観光復興の足取りを学修する。				事前：出題課題への対応 事後：火山がもたらす観光地被害について情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
13	【災害と観光－4】火山列島と観光：火山列島日本における地震、噴火等による災害への対応方策を学修する。				事前：出題課題への対応 事後：			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
14	【災害と観光－5】戦争遺跡と観光：古今の戦争による足跡の今日における観光との関係を学修する。				事前：出題課題への対応 事後：出題時事についての情報収集			復習 10分、講義 70分、 理解度テスト 10分	
15	【観光に関する時事を読み解く－3】昨今の出来事を取り上げディスカッションしながらその本質を理解する。				事前：出題課題への対応 事後：			講義 30分、 ディスカッション 60分	
教 本 : 各講義毎のプリントを使用					参 考 文 献 : その都度適宜紹介				
成 績 評 価 の 方 法、 評 価 基 準 : 授業参加及び授業態度等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 今日起こっている観光に関する社会現象について平日頃からニュース等により情報収集及び真意の深堀をしておくこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光情報論 (Tourism Informatics)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 当該授業は、観光領域での課題解決における情報系手法やその考え方の重要性を説明し、多様な計量的な手法の事例を紹介する。そして、観光実務や観光研究における情報システムの有用性を示唆し、今後の学修に役立てることを目的とする。主に、旅行者心理学・モチベーションの領域を基軸に観光行動・マーケティングへの基礎的考察を提示する。当該講義は、問題解決に際し「質問票調査」等の「実習」を予定している。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。									
授業目標： ① 観光学における「情報系領域」の有用性を理解する。 ② 観光系領域の学習において情報系知識（計量的手法）の重要性を理解する。 ③ 観光行動、観光心理学領域における計量的手法の事例を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	観光領域における情報系研究領域の役割（観光学の枠組みを通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
3	観光領域における情報系研究領域の役割（需要・供給、日常・非日常、居住地・目的地等の二面性を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
4	旅行目的地の選択過程における観光情報（1）（旅行者意思決定プロセス・モデル）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
5	旅行目的地の選択過程における観光情報（2）（旅行目的地選択モデル）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
6	旅行目的地の選択過程における観光情報（3）（Witt & Wrightの期待理論値モデル）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
7	④―⑥に関わる纏めとディスカッションと今後の展望（旅行者モチベーションの多様性(冒険ーリラクスの軸など)を含め、分析手法等を紹介する）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、ディスカッション50分	
8	アトラクションの認知とその総合的理解（1）（モチベーションからのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
9	アトラクションの認知とその総合的理解（2）（プロモーションからのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
10	アトラクションの認知とその総合的理解（2）（観光行動からのアプローチ）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
11	環境学と情報学（1）（人間・環境系からの視点）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
12	環境学と情報学（2）（環境計画[観光地計画]からの視点）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
13	マーケティングと情報（1）「個人差の抽出」（レパートリー・グリッド発展手法・ラダーリングによる検討の説明）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、小レポート10分	
14	マーケティングと情報（2）「各環境要素の抽出」（レパートリー・グリッド発展手法・ラダーリングと環境認識についての説明）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義40分、実習40分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教本： 指定しない。資料を配布する。									
参考文献：									
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 観光学に関する情報系領域の重要性を説明し、基礎的な内容を具体的に丁寧に説明します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 と 法 (Tourism and Law)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	福 島 崇 宏								
履 修 条 件	前 提 科 目	法 学 ま た は 法 の 性 格 と 役 割							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 東京オリンピック・パラリンピックの開催や外国人観光客の急激な増加などに伴い、インバウンドビジネスが急速に拡大している。そのような中で民泊やIR(統合型リゾート)など私たちの身近では新たな法制度をめぐるさまざまな問題が生じている。本授業では、このような観光に関して身近に起きる法律問題を共に考える機会を提供する。									
授 業 目 標 : 1. 社会調査結果の読み方と観光関連指標について理解する。 2. 場所に記憶されたもの(宗教、戦争、災害等)と観光との関わりと、社会における観光の意義についての理解を深める。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	インバウンド ・観光法概論・観光ビジネスと法との関連について概観する。					事前：教本第1章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
2	インバウンド ・観光政策体系・インバウンド政策の概要について理解を深める。					事前：教本第2章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
3	インバウンド ・観光法体系・インバウンドに関する法体系について理解を深める。					事前：教本第5章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
4	観光まちづくりと法 ・観光まちづくりに関する法律について理解を深める。					事前：教本第15章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
5	旅行業と法(1) ・旅行業をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
6	旅行業と法(2) ・旅行業に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第6章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
7	宿泊事業と法(1) ・宿泊事業をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
8	宿泊事業と法(2) ・宿泊事業に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第7章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
9	移動・交通手段と法(1) ・移動・交通手段をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第8章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
10	移動・交通手段と法(2) ・移動・交通手段に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第9章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
11	集客と法(1) ・集客をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第10章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
12	集客と法(2) ・集客に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第12章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
13	観光資源の保護・活用と法(1) ・観光資源の保護と活用をめぐる法体系の全体像を知る。					事前：教本第13章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
14	観光資源の保護・活用と法(2) ・観光資源の保護と活用に関する個別の法律問題を考える。					事前：教本第14章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
15	まとめ ・観光と法の全体像と争点を再確認する。					事前：教本第11章精読 事後：まとめノートの作成		講義60分、討論30分	
教 本 : 高橋一夫、柏木千春編著『1からの観光事業論』碩学舎、2016年。					参 考 文 献 : 森・濱田松本法律事務所観光法プラクティスグループ編『ガイドランス インバウンド・観光法』商事法務、2019年。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等(20%)、小テスト・レポート等(30%)、期末試験(50%)で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社会の中で観光と法がどのように結びついているのかについて、日頃から新聞や報道等で取り上げられている事件や事故を基に主体的に考える習慣をつけることが大切です。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 文 化 史 I (History of Tourism Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>歴史を紐解くことは、どの領域でも、又いつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化について内外の研究成果を紹介し、その意味を説明する。そして、現代の実務手法・研究方法に向けての新しい糸口の検討や、今後の観光を取り巻く環境を考察する際の一助となる考え方を論ずる。特に、「旅行動機」、「旅行者の類型化」などの領域では有用な視点が提出されており、今後の学修に有用な視点を提供することも考えられる。講義は「ディスカッション」を含み、多様な視点から説明する。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
授 業 目 標 :									
(1) 観光史の概要を理解する。									
(2) 観光史の理解を通し、現在の観光現象に対する有用な知見の理解を目指す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：授業の進め方や内容の説明を実施し、オリエンテーションを実施。					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	観光史の概要（観光史の歴史の変遷の俯瞰：歴史年表を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	旅の歴史の観光学における位置づけと意義 （観光学の体系性の中での観光史の意味、Cohen(1974)の概念ツリー「旅行者の特徴と規定」に関わる考察）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
4	旅の歴史のマクロ的アプローチ(1)(Smith(1992)の「巡礼者－旅行者(聖から俗)」のパスについて)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	旅の歴史のマクロ的アプローチ(2)(Cohen(1979)の「創始期巡礼、伝統的巡礼、マス観光」の対比)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	旅の歴史のマクロ的アプローチ(3)(近代における旅行特性の変化：TravellerとTourist：Boorstin(1962)による)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
7	旅の歴史のマクロ的アプローチ(4)(わが国における昭和初期における「旅」から「旅行」への変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
8	前回まで（講義前半）の纏めと、総合的ディスカッション					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
9	旅行者のモチベーション研究と観光史(1) (Pearce(1982)：観光史におけるモチベーションの変遷)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
10	旅行者モチベーション研究と観光史(2) (モチベーション論から観光史へのアプローチ)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
11	観光史における旅行者類型論的分析(1) （「共時的」と「通時的（歴史的）」との関係性）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
12	観光史における旅行者類型論的分析(2) （旅行者類型論の歴史性から考察される「現代の旅行者理解」）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション20分	
13	「観光文化史」の重要性(1) （文化社会現象としての観光文化史）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	「観光文化史」の重要性(2) （今後の観光に関わる施策・計画への応用と道筋）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	当該講義の纏め、およびディスカッション					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義50分、 ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 ごとにプリントを配布する。					適 時 指 示 する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
共 時 的 観 光 の 理 解 も 難 し い も の で す が、通 時 的 な 観 光 理 解 を 通 して、観 光 学 の 奥 深 さ や 面 白 さ を 学 修 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	観光文化史Ⅱ (History of Tourism Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	飯島 祥二								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>歴史を紐解くことは、どの領域でも、またいつの時代でも肝要なことである。当該講義は、観光（観光行動）の歴史と文化に関し内外の研究成果を紹介する。そして、現代の実務手法・研究方法に向けて新しい糸口の検討や、今後の観光を取り巻く環境を考察する際の一助となる考え方を説明する。当該講義では、歴史的な一次資料（講義で扱われる一次資料はすべて現代語訳を使用）の講読などを通し、古人の旅行（観光）への思いを考える。このような作業を通し、今後の学修に有用な視点を検討することを当該講義の目的とする。資料の講読などは、「グループワーク」にて行い、「プレゼンテーション」を実施する予定である。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1) 観光史の概要を理解する。 (2) 観光史を通し、現在の観光現象に対する深い知見の理解を目指す。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：授業の進め方・内容を説明する。					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	わが国の観光史の概要 （観光史の歴史の変遷の俯瞰：歴史年表を通して）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	「旅の歴史の観光学」 （観光学の体系性の中での観光史）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	わが国の文化史と観光史 （両者の接続点を検討する）					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「古代から、中世」その① [資料の選定等は受講生と相談して決める] 注意：一次資料等はすべて現代語訳を使用します。					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
6	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「古代から、中世」その② [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
7	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「古代から、中世」 その① [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
8	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「古代から、中世」 その② [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
9	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「近世」その① [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
10	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「近世」その② [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
11	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「近世」その① [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
12	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「近世」その② [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
13	一次資料（文学作品）の講読を通しての歴史的旅行の理解 「近代」その① [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
14	一次資料（絵画、絵巻物）の講読を通しての歴史的旅行の理解「近代」その① [資料の選定等は受講生と相談して決める]					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 プレゼンテーション50分	
15	当該講義の纏め、およびディスカッション					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義50分、 ディスカッション30分	
<p>教本： 授業ごとにプリントを配布する。</p>					<p>参考文献： 適時指定する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 共時的観光の理解も難しいものですが、通時的な観光理解を通して、観光学の奥深さや面白さを学修してください。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	観 光 文 化 論 (Tourism and Culture)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	古 賀 学								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 観 光 と 文 化 (社 会) の 様 々 な 関 係 に つ い て、観 光 客 と い う 視 点 か ら 観 光 活 動 の 現 状 や 歴 史 的 な 経 緯、各 種 文 化 の 特 性 等 を 踏 ま え て、よ り よ き 観 光 文 化 形 成 の あ り 方 に つ い て 探 求 す る。									
授 業 目 標 : ① 観 光 客 の 行 動 特 性、観 光 の 効 果 に つ い て 習 得 す る。 ② よ り よ き 観 光 文 化 の 形 成 の あ り 方 に つ い て 習 得 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	観 光 文 化 論 の 構 造 : 観 光 文 化 論 の 内 容 及 び 他 観 光 学 に お け る 位 置 づ け と 関 連 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 観 光 文 化 論 の 体 系 を 理 解 す る。 事 後 : 観 光 文 化 の 学 ぶ べ き 点 に つ い て 整 理 す る。			ガ イ ダ ン ス ・ 講 義 80 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
2	観 光 と 文 化 : 観 光 及 び 文 化、そ し て 観 光 文 化 の 意 味 に つ い て 理 解 す る。				事 前 : 文 化 と は 何 か に つ い て 調 査 す る。 事 後 : 観 光 文 化 と は に つ い て 整 理 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
3	旅 と 観 光 : 旅 と 観 光 の 歴 史 的 な 変 遷、観 光 客 と 旅 人、観 光 と ツ ィ リ ズ ム な ど を 検 証 す る こ と に よ り 観 光 文 化 を 理 解 す る。				事 前 : 旅 と 観 光 の 違 い に つ い て 調 査 す る。 事 後 : 観 光 と 旅、観 光 客 と 旅 人 の 違 い に つ い て 整 理 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
4	大 衆 の 旅 の 台 頭 : 江 戸 時 代 に お け る 旅 の 大 衆 化 と、そ の 目 的 と な っ た 宗 教 の 旅 と 保 養 療 養 の 旅 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 江 戸 時 代 の 旅 に つ い て 調 査 す る。 事 後 : 温 泉 と 宗 教 の 旅 に つ い て 整 理 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
5	観 光 の 行 動 形 態 : 観 光 の 計 画 か ら 帰 着 そ の 後 ま で の 観 光 客 の 行 動 形 態 及 び そ の 特 性 に つ い て 理 解 す る と と も に 学 修 す る。				事 前 : 自 身 の 観 光 行 動 に つ い て 振 り 返 る。 事 後 : 日 本 人 の 観 光 行 動 特 性 に つ い て 整 理 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
6~8	観 光 行 動 の 軌 跡 : 観 光 客 の 行 動 を 把 握 あ る い は 計 画 す る こ と に よ り 観 光 ル ー ト と 観 光 コ ー ス に つ い て、そ の 差 異 ・ 特 性 ・ 設 定 手 法 等 に つ い て 学 修 す る。ま た、観 光 モ デ ル コ ー ス の 設 定、観 光 モ デ ル コ ー ス の 旅 行 商 品 化 の た め の 留 意 点 等 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 既 存 旅 行 バ ン プ レ ッ ト の 内 容 を 検 証 す る。 事 後 : 観 光 コ ー ス と 観 光 ル ー ト の 違 い 及 び 旅 行 商 品 造 成 の 視 点 を 整 理 す る。			各 回 : 復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
9・10	観 光 地 の 変 容 : 観 光 行 動 の 推 進、観 光 地 受 入 体 制 の 整 備 等 に よ る 観 光 地 の 変 容 に つ い て、そ の 変 容 要 因、観 光 地 形 成 過 程 等 に つ い て 学 修 す る。				事 前 : 観 光 地 は ど の よ う に 変 わ っ て い く の か 調 べ て み る。 事 後 : 観 光 地 と 変 容 要 因 に つ い て 整 理 す る。			各 回 : 復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
11~14	観 光 地 の 変 容 事 例 : 現 在 の 観 光 地 が ど の よ う に 発 展 し 地 域 に お け る 観 光 文 化 を 気 づ い て き た か に つ い て 学 修 す る。都 市、農 山 村、自 然 観 光 地、商 業 観 光 地 な ど タ イ プ 別 に 考 察 す る。				事 前 : 事 例 観 光 地 の 資 料 収 集。 事 後 : よ り よ き 観 光 地 の 変 容 過 程 に つ い て 考 察 す る。			復 習 10 分、講 義 70 分、理 解 度 テ ス ト 10 分	
15	【ワ ー ク シ ョ ッ プ 「よ り よ き 観 光 文 化 の 形 成 に つ い て」】 : 観 光 客 の 行 動 特 性、観 光 地 の 変 容、全 て の 人 が 観 光 で き る 旅 行 環 境 の 整 備 等 を 踏 ま え、今 後 の よ り よ き 観 光 文 化 に つ い て 発 散 ・ 収 束 の 議 論 を 行 い ま と め を 行 う。				事 前 : 授 業 内 容 の 整 理 と よ り よ き 観 光 文 化 の 形 成 に つ い て 自 身 の 考 え を 整 理 す る。 事 後 : よ り よ き 観 光 文 化 の 形 成 の た め の 視 点 に つ い て 整 理 す る。			復 習 15 分、手 順 の 解 説 15 分、ワ ー ク シ ョ ッ プ 分 120 分、ま と め 30 分	
教 本 : テ キ ス ト は 授 業 ご と に プ リ ン ト を 配 布 す る。				参 考 文 献 : 適 宜 指 示 す る。					
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 定 期 試 験 及 び 平 常 点 を 加 味 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 観 光 を 構 成 す る 事 柄 に つ い て 全 般 的 に 学 ぶ 授 業 で す。自 身 の 興 味 の 方 向 を 見 出 す つ も り で 受 講 し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。基 本 的 に は 在 席 中 は い つ で も 可。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 (Tourism Marketing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	1 回 目 に チーム編成をします。1 回 目 から出席してください。							
授業概要： 社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県内の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。									
授業目標： 本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	神奈川県内の地域資源をサービスマーケティング思考で考える					事前：精読 (3-13) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
2	誘致誘客からマーケティングへ					事前：精読 (23-36) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
3	観光のブランドづくりとは					事前：精読 (37-46) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
4	強いブランドを生む					事前：精読 (47-58) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
5	イメージが浮かばなければ選べない					事前：精読 (59-72) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
6	ブランドと地名の違い					事前：精読 (73-80) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
7	地域の尖りを考える					事前：精読 (81-96) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
8	何かで一番になろう					事前：精読 (97-110) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
9	強いブランド					事前：精読 (111-125) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
10	地域の引力					事前：精読 (127-142) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
11	食によるブランド					事前：精読 (143-169) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
12	ブランドづくりの6ステップ					事前：精読 (171-191) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
13	観光立国について考える、質の観光という発想					事前：精読 (193-222) 事後：議論レポートの作成		講義30分 ディスカッション60分	
14	神奈川県内の観光に関するワールドカフェ					事前：精読 (171-191) 事後：議論レポートの作成		ワールドカフェ90分	
15	持続可能な観光の実現、グループ発表					事前：精読 (223-251) 事後：テスト準備		発表70分 講義20分	
教本： 『観光ブランドの教科書』（日本経済新聞出版社）					参考文献： 神奈川県観光地図				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 神奈川県内の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 I (Tourism Marketing I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	1 回 目 に チーム編成をします。1 回 目 から出席してください。							
授 業 概 要 :									
<p>社会は生産者志向から顧客志向へと遷移している。それは観光という分野でも例外ではない。そこで本講義では観光における顧客志向の観光を知り、かつ神奈川県内の観光についてディスカッションを行うことにより持続可能性の高い観光に関する理解を深める。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本講義の目的は、顧客志向の観光について、観光客目線を持ったマーケティング思考を身につけることである。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	神奈川県内の地域資源をサービスマーケティング思考で考える					事前：精読 (3-13) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
2	誘致誘客からマーケティングへ					事前：精読 (23-36) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
3	観光のブランドづくりとは					事前：精読 (37-46) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
4	強いブランドを生む					事前：精読 (47-58) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
5	イメージが浮かばなければ選べない					事前：精読 (59-72) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
6	ブランドと地名の違い					事前：精読 (73-80) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
7	地域の尖りを考える					事前：精読 (81-96) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
8	何かで一番になろう					事前：精読 (97-110) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
9	強いブランド					事前：精読 (111-125) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
10	地域の引力					事前：精読 (127-142) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
11	食によるブランド					事前：精読 (143-169) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
12	ブランドづくりの 6 ステップ					事前：精読 (171-191) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
13	観光立国について考える、質の観光という発想					事前：精読 (193-222) 事後：議論レポートの作成		講義 30 分 ディスカッション 60 分	
14	神奈川県内の観光に関するワールドカフェ					事前：精読 (171-191) 事後：議論レポートの作成		ワールドカフェ 90 分	
15	持続可能な観光の実現、グループ発表					事前：精読 (223-251) 事後：テスト準備		発表 70 分 講義 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『観光ブランドの教科書』(日本経済新聞出版社)					神奈川県観光地図				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>神奈川県内の地域資源を再発見することが求められます。また、各ディスカッションはチームでの取り組みになりますが、テストは各自の考えを記述してもらいますので、自分ごととして参加し、欠席せず積極的な参加を求めます。</p>									
オ フ ィ ス ア ワー :									
<p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 マーケティング論 II (Tourism Marketing II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	鈴 木 秀 顕								
履 修 条 件	前 提 科 目	観 光 マーケティング論 I (未 取 得 者 は 相 談 し て く だ さ い)							
	そ の 他	グ ルー プ ワーク 中 心 の 講 義 に な り ま す 。 事 前 準 備 を し っ か り し て お い て く だ さ い 。							
授 業 概 要 : 観 光 を 基 軸 と し た マーケティング にお いて は、観 光 客 日 線 の ほ か、行 政 日 線 で の 考 え 方 を 理 解 し て お く こ と も 大 切 で あ る 。 本 講 義 で は、行 政 日 線 に よ る 観 光 を 知 り、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン で 理 解 を 深 め、か つ 自 分 事 と し て 考 え る 。									
授 業 目 標 : 行 政 か ら 見 た 観 光 を 理 解 し、自 分 ごと と し て の 思 考 を 身 に つ け る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	人 を 呼 び 込 む 魅 力 的 な 景 観 形 成					事 前 : 精 読 (1-5) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
2	地 域 コ ミ ュ ニ ティ を 支 え る 魅 力 的 な 景 観 形 成					事 前 : 精 読 (5-7) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
3	地 域 価 値 を 「か たち」 に す る					事 前 : 精 読 (9-12) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
4	ま ち づ くり の 諸 活 動 を つ な ぐ					事 前 : 精 読 (13-15) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
5	ま ち づ くり の 多 様 な 担 い 手 を 関 係 づ け る					事 前 : 精 読 (16-19) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
6	持 続 可 能 性 を 支 え る					事 前 : 精 読 (19-22) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
7	活 性 化 の 成 果 を 豊 か に す る					事 前 : 精 読 (22-25) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
8	今 あ る 価 値 を 見 え る よ う に す る					事 前 : 精 読 (27-31) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
9	地 域 の 固 有 性 を 「か たち」 に す る					事 前 : 精 読 (32-35) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
10	新 し い 公 共 の モ デ ル を つ け る					事 前 : 精 読 (36-39) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
11	地 域 価 値 を 高 め 地 域 を 活 性 化 す る					事 前 : 精 読 (40-43) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
12	選 ば れ 続 け る 「ま ち」 の 持 続 性 を 高 め る					事 前 : 精 読 (44-47) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
13	人 を 呼 び 込 む 景 観 ま ち づ くり の 技 法					事 前 : 精 読 (49-95) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		講 義 30 分 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分	
14	厚 木 市 観 光 政 策 を 学 ぶ					事 前 : 精 読 (49-95) 事 後 : 議 論 レポ ー ト の 作 成		グ ルー プ ワーク 90 分	
15	「厚 木 市 観 光 ま っ ぷ」 発 表 会					事 前 : 発 表 準 備 事 後 : テ ス ト 準 備		発 表 70 分 講 義 20 分	
教 本 : 『人 を 呼 び 込 む ま ち づ くり』 (ぎ ょ う せ い)					参 考 文 献 : 自 治 体 職 員 の た め の 観 光 政 策 立 案 必 携				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : グ ルー プ ワーク 中 心 の 講 義 に な り ま す 。 各 自 が し っ か り 準 備 を し て 講 義 に 臨 む よ う に し て く だ さ い 。 ま た、「厚 木 市 観 光 ま っ ぷ」 は 厚 木 市 へ 提 案 し ま す 。 学 生 な ら で は の アイ デ ァ を 出 せ る よ う、し っ か り 講 義 に 臨 ん で く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	観 光 リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト 論 (Risk Management for Tourism)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 林 正 恭								
履 修 条 件	前 提 科 目	「リスク危機マネジメント方法論」および「リスク危機マネジメントの考え方とその応用」を学んでいることが好ましい。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
リスクマネジメント及びクライシスマネジメント (危機管理) は、観光におけるあらゆる活動に共通する基本的事項である。この授業では、観光における観光に伴うリスクの取り扱い及び危機時の対応について学ぶ。									
授 業 目 標 :									
将来、観光関係の業務に携わることを想定し、その際のリスクの取り扱い及び危機時の行動についての基礎的素養を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	オリエンテーション (授業の進め方、授業に臨む際の心構え等) 観光におけるリスクマネジメントの位置づけなど				事前：一 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
2	観光におけるリスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
3	観光におけるリスクの取り扱いの方法論				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
4	観光客の立場から見るリスクと危機のマネジメント (国内編)				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
5	観光客の立場から見るリスクと危機のマネジメント (国際編)				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
6	外国人観光客の立場から見るリスクと危機のマネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
7	従業員の立場から見るリスクと危機のマネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
8	経営者の立場から見るリスクと危機のマネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
9	観光あっせん、情報提供等の組織 (旅行業者等) から見るリスク と危機のマネジメント、観光ビジネスのリスクとその取扱い				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
10	観光における官の役割と影響並びにそのリスク				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
11	地域社会から見る観光のリスクと危機のマネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
12	観光におけるリスクおよび危機の要因 (災害)				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
13	観光におけるリスクおよび危機の要因 (その他)				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
14	総合的視点の観光のリスク危機マネジメント				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
15	まとめ				事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義 60分、ディス カッション 30分	
教 本 :									
な し									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (レポ ー ト 等) (60%)、定 期 試 験 (40%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 は 休 ま ない こと。ど ん どん 自 分 で 考 え て 発 言 す る こと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
別 途 掲 示 さ れ る 予 定 に な っ て い る の で そ の 時 間 帯 に 来 て く だ さ い。あ ら か じ め、電 話 ま た は メ ー ル で、あ る い は、研 究 室 へ の メ ッ セ ー ジ の 投 函 で 事 前 連 絡 を ぐ れ る と あ り が た い の で す。電 話 番 号 は 080-4732-3423、メ ー ル ア ド レ ス は mmiyabas@shoin-u.ac.jp 、研 究 室 は 3810 室 で す。 備 考 : デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 中 心 と し た 授 業 と な る の で、授 業 の 進 度 に つ い て は 上 記 に 書 か れ た 予 定 通 り と な ら ない 可 能 性 が あ る。適 宜 調 整 し な が ら 進 む る こと と す る。ま た、学 生 の 知 識 の 状 況 に よ っ て は そ の 水 準 を 合 わ せ た た め の 講 義 を 追 加 し て 行 う こと も あ る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	韓国語 I (Korean I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	南 春英								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	韓国語を母語としないこと。							
授業概要： 韓国語を初歩から学習する。まず、韓国語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいく。									
授業目標： 韓国語の文字 (=ハングル) を読み、書けるようにすること、基本的な語彙を習得すること、基本的な文法をマスターすることを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	ガイダンス&韓国語の概要について説明する。 基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：なし 事後：母音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
2	基本母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：母音字を暗記すること 事後：母音字と単語を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
3	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄱ」から「ㄴ」まで					事前：母音字を暗記すること 事後：子音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
4	基本子音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。 「ㄷ」から「ㄹ」まで					事前：子音字を暗記すること 事後：子音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
5	子音字の激音と濃音の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：子音字を確認すること 事後：激音と濃音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
6	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <k型>から<p型>まで					事前：激音と濃音字を確認すること 事後：パッチムを暗記すること		講義 60分 演習 30分	
7	終声の「パッチム」の仕組みを紹介し、読み書きの練習を行う。 <m型>から<l型>まで					事前：激音と濃音字を確認すること 事後：パッチムを暗記すること		講義 60分 演習 30分	
8	合成母音字の形態と発音を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：パッチムの仕組みを確認すること 事後：複合母音字を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
9	発音変化の仕組みについて説明をし、発音の練習を行う。					事前：複合母音字を暗記すること 事後：例を読み込んで暗記すること		講義 60分 演習 30分	
10	挨拶の言葉を紹介し、読み書きの練習を行う。					事前：教科書 p.29-31確認すること 事後：挨拶の言葉を暗記すること		講義 60分 演習 30分	
11	第1課で、肯定文の構造を説明し、読み書きの練習を行う。					事前：第1課の語彙を暗記すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 60分 演習 30分	
12	第1課で、否定文の構造を説明し、読み書きの練習を行う。 自己紹介の練習を行う。					事前：第1課の語彙を暗記すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 60分 演習 30分	
13	第2課で、指示詞と存在詞を使用した短文の練習を行う。					事前：第2課の語彙を暗記すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 60分 演習 30分	
14	第2課で、主語を作る助詞の紹介と短文作りの練習を行う。					事前：第2課の語彙を暗記すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 60分 演習 30分	
15	全体の復習をする。 テストを行う。					事前：1学期の内容をまとめること 事後：なし		演習 30分 テスト 60分	
教本： 「ソウルアカデミー 韓国語〈1〉」 蒼学舎 金 宰郁					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	韓国語Ⅱ (Korean Ⅱ)						科目分類	基礎科目		
担 当 教 員	南 春英									
履 修 条 件	前提科目	韓国語Ⅰ								
	その他	韓国語を母語としないこと。韓国語文字の読み書きができること。								
授業概要： 韓国語Ⅰに引き続き、韓国語の基本的な文法を学習する。また、実際の会話でよく使う表現文型を紹介する。										
授業目標： 基本的な文法と語彙をさらに習得し、簡単な文の読み書きができることを目標とする。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	前期の内容を復習する。					事前： 事後：		講義 30分 演習 60分		
2	第3課：用言の現在形活用の練習を行う。					事前：配布プリントの語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
3	第3課：場所の助詞「で」を覚え、練習を行う。					事前：教科書 p.55の語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
4	第4課：漢数字と関連の単位名詞の練習を行う。					事前：漢数字を暗記すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
5	第4課：固有数詞と関連の単位名詞の練習を行う。					事前：固有数字と p.65の語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
6	第5課：日付の読み書き練習を行う。					事前：漢数字・固有数詞を確認すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
7	第6課：用言の過去形活用の練習を行う。					事前：主要用言の現在形を確認すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
8	第6課：用言の過去形活用の練習を行う。					事前：主要用言の現在形を確認すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
9	第6課：感嘆の表現文型を覚え、練習を行う。 曜日と助詞「と」「から」「まで」を使った文章作りを行う。					事前：教科書 p.83の語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
10	第7課：移動の表現を覚え、練習を行う。 助詞「に」の様々な使い方を覚え、文章作りを行う。					事前：教科書 p.93の語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
11	第7課：尊敬の表現を覚えて活用の練習を行う。					事前：主要用言の現在形を確認すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
12	第8課：助詞「に」の様々な使い方を覚え、文章作りを行う。					事前：教科書 p.103の語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
13	第8課：お願いの表現文型を覚え、文章作りの練習を行う。					事前：主要用言の現在形を確認すること 事後：配布の課題を行うこと		講義 30分 演習 60分		
14	全体を復習する。					事前：配布資料の語彙を暗記する 事後：配布の課題を行うこと		演習 90分		
15	全体を復習する。 テストを行う。					事前：1学期の内容をまとめること 事後：なし		演習 30分 テスト 60分		
教本： 「ソウルアカデミー 韓国語〈1〉」 蒼学舎 金 宰郁					参考文献：					
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 必ず復習をして、授業で学習した内容は当週に覚えましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (Korean Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前 提 科 目	TOPIK (韓 国 語 能 力 試 験) 3 級 合 格、ハ ン グ ル 能 力 検 定 試 験 3 級 合 格 以 上							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要： この授業を通じて、単なる「話術」ではなく、適切な発表材料の作成、明快な論旨の展開、適切な韓国語表現等多様な約立つスキルを身につける。									
授 業 目 標： より実践的なプレゼンテーションやディバートの能力を身につけるため、受講学生にはテーマを与え、実際にPPT等を作成し、授業の中でプレゼンテーションやディバートを行わせる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、韓国語プレゼンテーションの意義を説明する。					事前：教科書の準備をする 事後：資料の確認をする		講義 80分、 ディスカッション 10分	
2	韓国語で自己紹介をする。プレゼンテーションの準備をする。確認シートを作成する。					事前：自己紹介を用意する 事後：韓国語の発音練習		講義 40分、ディスカッション 20分、発表 30分	
3	韓国語プレゼンテーション（個人）の効果的な作成方法を概説する。課題をする。					事前：プレゼン作成方法を調べる 事後：資料の確認をする		講義 50分、 ディスカッション 40分	
4	韓国語プレゼンテーション（個人）においてストーリーシート（企画立案）を作成する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
5	韓国語プレゼンテーション（個人）においてストーリーシート（構成）、およびコンセプトシートを作成・提出する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
6	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションのリハーサルを行う。					事前：リハーサルの準備 事後：資料の確認をする		講義 20分、発表 70分	
7	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションの実践の個人発表を行う。					事前：プレゼンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、発表 70分	
8	韓国語プレゼンテーションの実践発表を電子データ化し、上映する。					事前：パソコンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、 ディスカッション 70分	
9	韓国語プレゼンテーション（グループ）の効果的な作成方法を概説する。課題をする。					事前：プレゼン作成方法を調べる。 事後：プレゼン作成方法を纏める。		講義 50分、 ディスカッション 40分	
10	韓国語プレゼンテーション（グループ）においてストーリーシート（企画立案）を作成する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
11	韓国語プレゼンテーション（グループ）においてストーリーシート（構成）、およびコンセプトシートを作成・提出する。					事前：ストーリーシートの調査 事後：ストーリーシートの作成		講義 50分、 ディスカッション 40分	
12	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションのリハーサルを行う。					事前：リハーサルの準備 事後：資料の確認		講義 20分、発表 70分	
13	コンセプトシートに基づいて韓国語プレゼンテーションの実践のグループ発表を行う。					事前：プレゼンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、発表 70分	
14	韓国語プレゼンテーションの実践発表を電子データ化し、上映する。					事前：パソコンの準備 事後：発表の振り返り		講義 20分、 ディスカッション 70分	
15	まとめ					事前：全資料を下読みする。 事後：発表の振り返り		講義 40分、 ディスカッション 50分	
教 本： 「ソウルアカデミー韓国語 1、金宰郁他、蒼学舎、¥2,000」					参 考 文 献： 「ソウルアカデミー韓国語 1 Workbook、金宰郁他、蒼学舎、¥1,000」				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (40%)、課 題 (30%)、発 表 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 初 回 の 授 業 に 必 ず 出 席 す る こ と。語 学 は 聞 い て か ら 話 す も の な の で と り あ え ず CD を 聞 く こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 文 化 研 究 A (Korean Studies A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	南 春 英								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。									
授 業 目 標 : 隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め		講義	
2	韓国の自然環境					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
3～5	韓国の料理（主食、おかず、調味料など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
6・7	韓国の服装（韓服、飾りなど）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
8～10	韓国の住まいと暮らし（韓屋、家具など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
11～14	発表 日本 VS 韓国 伝統文化比較					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討		発表・討論	
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか		講義	
教 本 : なし。必要に応じてプリントを配布します。					参 考 文 献 : 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、発 表 (30%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	韓 国 文 化 研 究 B (Korean Studies B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	南 春 英								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : この授業では、韓国の文化について学ぶ。韓国の文化に関する基礎知識を身に付け、隣国に対する理解を深めることと、異文化としての韓国を理解することが授業の目的である。									
授 業 目 標 : 隣りの国である韓国を身近く感じ、その文化を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○						◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業内容の説明					事前：なし 事後：韓国に関する情報を集め		講義	
2	韓国の経済と産業					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
3～5	韓国の歳時風俗（しめ縄、トル、祭事など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
6・7	韓国の民俗信仰（檀君神話、クッ、祀堂など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
8～10	韓国の趣（民族楽器、パンソリ、民族舞踊など）					事前：韓国ニュースを要約 事後：疑問点などを各自調べる		講義	
11～14	発表 韓国の世界遺産を調べる					事前：発表準備 事後：発表の改善点を検討		発表・討論	
15	まとめ					事前：復習 事後：韓国文化理解ができたか		講義	
教 本 : なし。必要に応じてプリントを配布します。					参 考 文 献 : 書籍や文献は授業のなかで随時紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授業参加状況等 (20%)、発表 (30%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 韓国に対する関心を持ち、ニュースや色々な方法を通じて韓国に関する情報を集めておいてください。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	監 査 論 (Auditing)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	会 計 学 I ・ II または 中 級 簿 記 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企業が作成する財務諸表は、必ずしも適正であるとは言えない。そこで、作成した財務諸表が適正に作成されているのかを調査するために、「監査」をする必要がある。本講義では、財務諸表と監査について学ぶ。									
授 業 目 標 : 監査の役割やプロセスなどについて理解を深めることを目標とする。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	法定監査制度と監査の必要性 授業概要を含め、会計監査について解説する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	金商法と会社法に基づく監査制度 金商法と会社法にみられる監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
3	監査基準 監査にかかる基準について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
4	問題演習 1 第 3 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
5	監査のプロセス 1 (リスク・アプローチ) リスク・アプローチについて解説する					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
6	監査のプロセス 2 (監査計画) 監査計画の策定等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
7	監査のプロセス 3 (リスク評価・監査手続) 固有リスクや統制リスク等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
8	監査のプロセス 4 (監査意見・監査報告書) 監査意見や監査報告書にかかる事項について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
9	問題演習 2 第 5 回から第 8 回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
10	監査と不正 不正や不正リスク等について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
11	内部統制監査 内部統制や内部統制監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
12	監査の品質 不正リスクを含め、監査の品質管理について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
13	監査の国際的動向・公監査 監査の国際的動向と公監査について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
14	四半期レビュー・保証業務 四半期レビューの制度と保証業務について解説する。					事前：配布資料の見返し 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
15	問題演習 3 第10回から第14回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの見返し 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 : 山浦久司『監査論テキスト』(最新版)、中央経済社。					参 考 文 献 : 長吉眞一 他 (2019)『監査論入門』(最新版)、中央経済社。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	漢 文 学 研 究 (Classical Chinese)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 村 貴 博								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	漢 和 辞 典 を 持 参 す る こ と。							
授 業 概 要 : 漢 和 辞 典 を 引 き な が ら、返 り 点 ・ 送 り 仮 名 に 従 っ て 漢 詩 文 を 読 解 し、中 国 文 学 の 特 色 と 日 本 に 与 え た 影 響 を 理 解 す る。									
授 業 目 標 : 訓 点 の 付 いた 漢 文 を 書 き 下 し 文 に し て、口 語 訳 で き る よ う に な る こ と。 漢 和 辞 典 を 使 い こ な せ る よ う に な る こ と。漢 詩 文 の 基 礎 知 識 を 習 得 す る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、孟浩然「春曉」 詩型、詩の規則を学ぶ。					事前：教科書の用意 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
2	「漢文の基本構造」、「訓読の仕方」(1)「置き字」 基本構造を理解する。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
3	訓読の仕方(2)「再読文字」、「成句・格言を読む」 訓読の仕方を学び作品をよむ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
4	故事成語(1)「虎の威を借る狐」(「戦国策」) 作品の背景を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
5	故事成語(2)「蛇足」(「戦国策」) 作品の背景を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
6	漢詩(1) 王維「送元二使安西」 詩型と詩の規則を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
7	漢詩(2) 李白「送孟浩然之廣陵」 友情文学について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
8	漢詩(3) 杜甫「春望」 望郷について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
9	思想(1)『論語』(1)「学」 儒家思想と教育について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
10	思想(2)『論語』(2)「政」 儒家思想と政治について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
11	思想(3)『論語』(3)「仁」 「仁」を定義する。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
12	散文(1) 韓愈「雑説」(1) 散文の歴史を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
13	散文(2) 韓愈「雑説」(2) 現実の例にあてはめる。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
14	講義内容の総括、試験事前指導					事前：次回講義の予習・訓読 事後：試験対策学習		講義 20分、読解40分、ディスカ ション 20分、まとめ10分	
15	期末試験、およびその事後指導。					事前：試験対策学習 事後：試験の復習		試験 60分、こたえあわせ15分、 ふりかえり15分	
教本： 三上英司編著『詳説漢文句法 改訂版』(筑摩書房) 田部井文雄ほか『漢詩漢文小百科』(大修館書店)					参考文献： 戸川芳郎監修『全訳漢辞海』(三省堂)				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(25%)、小テスト・レポート等(25%)、定期試験(50%)等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： わからない言葉は辞書で調べる習慣を身に付けよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	漢 文 学 研 究 I (Classical Chinese I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 村 貴 博								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	漢 和 辞 典 を 持 参 す る こ と。							
授 業 概 要 : 漢 和 辞 典 を 引 き な が ら、返 り 点 ・ 送 り 仮 名 に 従 っ て 漢 詩 文 を 読 解 し、中 国 文 学 の 特 色 と 日 本 に 与 え た 影 響 を 理 解 す る。									
授 業 目 標 : 訓 点 の 付 いた 漢 文 を 書 き 下 し 文 に し て、口 語 訳 で き る よ う に な る こ と。 漢 和 辞 典 を 使 い こ な せ る よ う に な る こ と。漢 詩 文 の 基 礎 知 識 を 習 得 す る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、孟浩然「春曉」 詩型、詩の規則を学ぶ。					事前：教科書の用意 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
2	「漢文の基本構造」、「訓読の仕方」(1)「置き字」 基本構造を理解する。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
3	訓読の仕方(2)「再読文字」、「成句・格言を読む」 訓読の仕方を学び作品をよむ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
4	故事成語(1)「虎の威を借る狐」(「戦国策」) 作品の背景を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
5	故事成語(2)「蛇足」(「戦国策」) 作品の背景を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
6	漢詩(1) 王維「送元二使安西」 詩型と詩の規則を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
7	漢詩(2) 李白「送孟浩然之廣陵」 友情文学について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
8	漢詩(3) 杜甫「春望」 望郷について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
9	思想(1)『論語』(1)「学」 儒家思想と教育について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
10	思想(2)『論語』(2)「政」 儒家思想と政治について学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
11	思想(3)『論語』(3)「仁」 「仁」を定義する。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
12	散文(1) 韓愈「雑説」(1) 散文の歴史を学ぶ。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
13	散文(2) 韓愈「雑説」(2) 現実の例にあてはめる。					事前：次回講義の予習・訓読 事後：学習内容の復習・要約		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
14	講義内容の総括、試験事前指導					事前：次回講義の予習・訓読 事後：試験対策学習		講義 20分、読解40分、ディスカッション 20分、まとめ10分	
15	期末試験、およびその事後指導。					事前：試験対策学習 事後：試験の復習		試験 60分、こたえあわせ15分、ふりかえり15分	
教 本 : 三上英司編著『詳説漢文句法 改訂版』(筑摩書房) 田部井文雄ほか『漢詩漢文小百科』(大修館書店)					参 考 文 献 : 戸川芳郎監修『全訳漢辞海』(三省堂)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (25%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (25%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : わ か ら な い 言 葉 は 辞 書 で 調 べ る 習 慣 を 身 に 付 け よ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	漢 文 学 研 究 II (Classical Chinese II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 村 貴 博								
履 修 条 件	前 提 科 目	漢 文 学 研 究 I							
	そ の 他	漢 和 辞 典 を 持 参 す る こ と。							
授 業 概 要 : 漢 和 辞 典 を 引 き な が ら、返 り 点 ・ 送 り 仮 名 に 従 っ て 漢 詩 文 を 読 解 し、中 国 文 学 の 特 色 と 日 本 に 与 え た 影 響 を 理 解 す る こ と。									
授 業 目 標 : 訓 点 の 付 いた 漢 文 を 正 確 に 書 き 下 し 文 に し て、口 語 訳 で き る よ う に な る こ と。 漢 和 辞 典 を 使 い こ な せ る よ う に な る こ と。漢 詩 文 の 基 礎 知 識 を 習 得 す る こ と。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、小話「饅頭を畏る」(『笑府』) 訓読の復習をする(1)					事前:教科書、辞書の用意 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
2	史話「晏子之御」(『史記』) 訓読の復習をする(2)					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
3	故事成語「孟母断機」(『列女伝』) 教育における環境について考える。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
4	漢詩(1)李白「静夜思」「子夜呉歌」 詩型と詩の規則を学ぶ。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
5	漢詩(2)王維「九月九日憶山東兄弟」 中国の年中行事を学ぶ(1)					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
6	漢詩(3)杜甫「登高」 中国の年中行事を学ぶ。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
7	思想(1)孟子「性善説」 人の性質について考える。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
8	思想(2)荀子「性悪説」 人の性質について考える。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
9	思想(3)『老子』第十八章、第七十八章 逆説的表現について学ぶ。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
10	思想(4)『老子』第八十章 老子の国家観について考える。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
11	思想(5)『莊子』 「無用之用」について考える。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
12	散文(1)屈原「漁父辞」(1) 漁父と屈原の考えを整理する。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
13	散文(2)屈原「漁父辞」(2) 漁父と屈原のどちらに賛成するかを考え、発表する。					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:学習内容の復習・要約		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
14	講義内容の総括、期末試験事前指導					事前:次回講読作品の予習・訓読 事後:試験対策学習		講義20分、読解40分、ディスカッション20分、まとめ10分	
15	期末試験、およびその事後指導					事前:試験対策学習 事後:試験の復習		試験60分、こたえあわせ15分、ふりかえり15分	
教本: 三上英司編著『詳説漢文句法 改訂版』(筑摩書房) 田部井文雄ほか『漢詩漢文小百科』(大修館書店)					参考文献: 戸川芳郎監修『全訳漢辞海』(三省堂)				
成績評価の方法、評価基準:到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等(25%)、小テスト・レポート等(25%)、定期試験(50%)等で総合評価する。漢文学研究I単位取得者のみ履修をみとめる。									
学生へのアドバイス: わからない言葉は辞書で調べる習慣を身に付けよう。									
オフィスアワー: 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	管理会計論 (Managerial Accounting)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理Ⅰ、Ⅱ、経営管理論Ⅰ、Ⅱ							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>この講義では、企業の目的とそれを達成するために遂行される経営者職能と会計の役立ちを論ずる。企業の活動は、資金の調達から生産・販売・流通に至る広範囲なものであり、最近では製品の廃棄処分に至るまでの過程を考慮することが求められるようになってきている。このような活動を計画しそれを実現・統制するために経営者が存在する。経営者職能は経営の階層によってそれぞれ異なるが、各階層での職務を効率的に遂行するために会計情報が必要とされる。</p> <p>管理会計とは、この会計情報をいう。この講義では、Top Managementの職能に焦点を当てて講義を行う。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>企業の経営管理者にとってその職務遂行に会計情報は、必須のものである。この講義では、経営者の職務・目的の理解とその遂行に必要な会計情報の関連を論ずる。企業経営で行われる管理会計の実務を理解し、その基礎にある考え方を理解することを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序					事前：テキストの予習 事後：管理会計の理解		講義 90分	
2	財務会計と管理会計					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	企業とその目標					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	会計情報システム					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	管理会計の意義					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	経営者職能					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	意思決定と計画					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	統制					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	問題発見のための会計 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	問題発見のための会計 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	問題発見のための会計 ③					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	収益性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	安全性分析 ①					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	安全性分析 ②					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
<p>教本：初回に指示する。</p> <p>参考文献：「管理会計」岡本・廣本・尾畑・挽著 中央経済社</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 休まないことと、予習・復習の実施を希望する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	企業金融論Ⅰ (Corporate FinanceⅠ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	白川 満伸									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要： 企業金融論Ⅰでは、主に他人資本調達すなわち金融機関からの借入れや社債による資金調達を取り上げます。なお、企業金融論Ⅱでは、内部金融や株式金融を取り扱います。</p>										
<p>授業目標： 「企業がどのような資金を必要とし、それをどのような手段によって調達するのか」という資金調達の問題を中心にして授業を進めます。できるだけ抽象理論を避け、我が国企業の実態に即した問題を取り上げます。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
2	企業金融とは何か					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
3	株式会社の特徴					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
4	企業の資金需要					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
5	資金調達の形態① 内部資金					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
6	資金調達の形態② 外部資金					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
7	財務諸表の見方					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
8	キャッシュフロー					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
9	借入金の種類					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
10	利息の計算方法					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
11	メインバンク制					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
12	担保					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
13	社債とは何か					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
14	社債の種類、格付け					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
15	まとめ					事前：なし 事後：なし		講義 90分		
<p>教本： 1. 中島真志著「入門企業金融論」東洋経済新報社、2,800円</p>					<p>参考文献： 追って紹介する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①平常点30%、②筆記試験成績70%</p>										
<p>学生へのアドバイス： 企業金融論Ⅱも履修することを希望します。</p>										
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 金 融 論 II (Corporate Finance II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	白 川 満 伸								
履 修 条 件	前 提 科 目	企 業 金 融 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 金 融 論 I で 学 ぶ 知 識 を 前 提 と し て 、 企 業 金 融 論 II で は 、 自 己 資 本 調 達 す な わ ち 自 己 金 融 と 株 式 金 融 を 中 心 に 取 り 上 げ ま す 。									
授 業 目 標 : 「 企 業 が ど の よ う な 資 金 を 必 要 と し 、 そ れ を ど の よ う な 手 段 に よ っ て 調 達 す る の か 」 と い う 資 金 調 達 の 問 題 を 中 心 に し て 授 業 を 進 め ま す 。 で き る だ け 抽 象 理 論 を 避 け 、 我 が 国 の 実 態 に 即 し た 問 題 を 取 り 上 げ ま す 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
2	株 式 発 行 の 枠 組 み					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
3	株 主 の 権 利					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
4	株 価					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
5	株 式 の 種 類 ①					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
6	株 式 の 種 類 ②					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
7	株 式 公 開					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
8	企 業 の 合 併 ・ 買 収					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
9	自 己 金 融 ① 内 部 留 保					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
10	自 己 金 融 ② 減 価 償 却					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
11	ア セ ッ ト ・ フ ァ イ ナ ン ス					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
12	資 産 の 流 動 化 ・ 証 券 化					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
13	ベ ン チ ャ ー ・ フ ァ イ ナ ン ス ①					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
14	ベ ン チ ャ ー ・ フ ァ イ ナ ン ス ②					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
15	ま と め					事 前 : な し 事 後 : な し		講 義 90 分	
教 本 : 1. 中 島 真 志 著 「 入 門 企 業 金 融 論 」 東 洋 経 済 新 報 社 、 2,800 円					参 考 文 献 : 追 っ て 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 ① 平 常 点 30% 、 ② 筆 記 試 験 成 績 70%									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 企 業 金 融 論 I も 履 修 す る こ と を 希 望 し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 組 織 法 I (Corporate Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>企業組織法とは会社法のことである。会社法は、会社という企業の組織・運営に関する法律であり、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。この講義では、そのような会社法の内容について学習する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本講義は、会社とくに株式会社に関する法制度を学習することによって、会社法に関する法の規整についての基本的な知識を得ることを目標としている。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	会社法上の会社とそれ以外の会社の違いについて検討する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 90分	
2	会社法上の会社には何があり、それらがどのように違うかを説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
3	株式会社の設立手続の流れを理解する。そのために代表に発表してもらう。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
4	発起設立と募集設立の違いを理解しかつ説明できるようグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
5	株式の概念を理解するとともに有価証券としての株券の機能について説明できるようグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
6	株式の多様な存在とその利用目的がそれぞれ説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
7	株主の権利にはどのようなものがあるか、反対株主の株式買取請求権などの少数株主保護の制度について説明できるようにグループディスカッションを実施する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
8	会社には何故機関が必要につき自然人と比較して検討する。そのため代表者に発表してもらう。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
9	株主総会の招集手続と総会の決議事項について説明できるようにグループディスカッションを行う。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
10	議題と議案について説明できるできるように代表者の報告をもとに議論する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
11	取締役、取締役会は何のためにあるのかについて議論することにより、株式会社の業務執行機関の基本構造を説明できるようにする。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、教員の報告 30分、まとめ 20分	
12	業務執行機関としての代表取締役制度について説明できるようにグループディスカッションを徹底する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
13	監査役・会計監査人は何のために存在するか、その役割を十分実際に果たしているかにつき代表者の報告によって明らかにする。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
14	監査等委員会設置会社と指名委員会設置会社という比較的新しい会社形態誕生の理由を説明できるようグループディスカッションをする。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、ディスカッション 30分、まとめ 20分	
15	執行役・代表執行役という委員会等設置会社の業務執行機関につき説明できるように代表者の報告に基づき議論する。					事前：レジュメの該当箇所の精読 事後：授業内容を200字でまとめる		講義 40分、報告 30分、まとめ 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
とくにない。					丸山秀平『やさしい会計法〔第14版〕』(法学書院、2021) ¥2,400+税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
平常点(グループディスカッション等への参加状況・報告内容40%)、定期試験(60%)で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
上記のような方式で授業を実施するので、受講者はそれなりの「覚悟」をもって授業に出席しないとイケない。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 組 織 法 II (Corporate Law II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>企業組織法とは会社法のことである。会社法とは、会社という企業の組織・運営に関する法律であり、会社を通じた経済活動のインフラを提供するというかたちで、国民経済にとって極めて重要な役割を果たしている。この講義では、そのような会社法の内容について学習する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本講義は、会社とくに株式会社に関する法制度を学習することによって、受講生が会社法に関する法の規整についての基本的な知識を得ることを目標としている。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	競 業 取 引 ・ 利 益 相 反 取 引 が 何 故 規 制 さ れ て い る か 検 討 す る。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 90 分	
2	取 締 役 の 報 酬 等 の 規 制 の 理 由 と 内 容 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
3	役 員 等 の 会 社 に 対 す る 責 任 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
4	役 員 等 の 第 三 者 に 対 す る 責 任 が 何 故 定 め ら れ て い る か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
5	株 主 代 表 訴 訟 ・ 多 重 代 表 訴 訟 制 度 の 内 容 を 説 明 で き る よ う に、代 表 者 に 報 告 し て も ら う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、報 告 30 分、ま と め 20 分	
6	会 社 計 算 精 度 の 概 要 を 説 明 で き る よ う に、代 表 者 に 報 告 し て も ら う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、報 告 30 分、ま と め 20 分	
7	募 集 株 式 の 発 行 等 の 手 続 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
8	新 株 予 約 権 と は ど の よ う な 権 利 か、ど の よ う な 使 わ れ 方 を す る か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
9	募 集 株 式 の 不 公 正 発 行 等 と は ど の よ う な 場 合 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
10	事 業 譲 渡 ・ 合 併 と は ど の よ う な 組 織 再 編 行 為 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
11	株 式 交 換 ・ 株 式 移 転 と は ど の よ う な 組 織 再 編 行 為 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
12	会 社 分 割 と は ど の よ う な 組 織 再 編 行 為 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
13	社 債 の 制 度、社 債 管 理 者 ・ 社 債 権 者 集 会 に つ い て 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
14	合 同 会 社 と は ど の よ う な 会 社 か 説 明 で き る よ う に グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分、ま と め 20 分	
15	会 社 の 解 散 ・ 清 算 に つ い て 説 明 で き る よ う に 代 表 者 に 報 告 し て も ら う。					事 前 : レ ジ ュ メ の 該 当 箇 所 の 精 読 事 後 : 授 業 内 容 を 200 字 で ま と め る		講 義 40 分、報 告 30 分、ま と め 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
と くに ない。					丸 山 秀 平 『や さ し い 会 計 法 [第 14 版]』 (法 学 書 院、2021) ¥2,400 + 税				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
平 常 点 (グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 等 へ の 参 加 状 況 ・ 報 告 内 容 40%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
上 記 の よ う な 方 式 で 授 業 を 実 施 す る の で、受 講 者 は そ れ 乃 り の 「覚 悟」 を も っ て 授 業 に 出 席 し ない と い け ない。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 文 化 論 I (Corporate Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>個人に個性があるように、企業も個々に企業文化を有しアイデンティティの確立を図っています。また、その一方で、従来の組織構造、コントロール・システム、評価システム、戦略技法の枠組みでは捉えきれない世界を考察するためにも、企業文化の視点の重要性が指摘されています。そこで、この授業では、まず企業文化に関する諸問題を洗い出し、次いでそれらを理解する枠組みを歴史的・理論的視点から整理したうえで、企業文化論の内容を具体的に学習していきます。</p>									
授 業 目 標 :									
企業文化論のフレームワークを通して企業文化理解の基礎力を養成します。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
2	企業文化論生成の背景を1980年代のアメリカに探る				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により背景をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
3	企業文化論の諸問題を俯瞰する				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により諸問題を整理する			講義 70分 質疑応答 20分	
4	企業文化論の学説 (1) —— ビーターズ&ウォーターマンの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
5	企業文化論の学説 (2) —— ディール&ケネディの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
6	企業文化論の学説 (3) —— シャインの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
7	企業文化論の学説 (4) —— コッター&ヘスケットの研究を検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
8	企業文化概念を吟味：概念の多義・多様性の理解と本講義での定義づけを行う				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
9	企業文化の構造 (1) —— 文化の構成要素を整理する：基本的仮定、価値観、思考様式				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
10	企業文化の構造 (2) —— 文化の構成要素を整理する：行動様式、人工物、コミュニケーションズ				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
11	企業文化の機能 (1) —— 文化の働きを対個人、対組織、対社会において検討する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
12	企業文化の機能 (2) —— 文化の逆機能を解説する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
13	企業文化の類型 —— 文化が型をなすことを理解する				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
14	企業文化のメカニズムとダイナミズムを解説する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
15	企業と文化、企業の文化 —— 文化の重層性を理解する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. E. H. シャイン 『企業文化』 白桃書房、¥3,500+税					授業の中で随時紹介します。				
2. 印刷資料も用います。									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (60%) 等で総合評価します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 文 化 論 I (Corporate Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 は モ ノ や サ ー ビ ス を 主 に 開 発 ・ 生 産 ・ 販 売 す る 経 済 主 体 で す が 、 創 業 者 や 経 営 者 、 従 業 員 、 地 域 、 歴 史 、 業 種 ・ 業 態 、 実 績 等 に よ り 、 独 自 の 考 え 方 や 価 値 観 、 特 徴 を 持 ち ます 。 こ れ ら を 総 称 し て 企 業 文 化 と い い ます が 、 企 業 の 成 長 ・ 発 展 に 大 き な 影 響 を 及 ぼ し ます 。 本 講 座 で は 、 企 業 文 化 の 意 義 と 重 要 性 に ふ れ 、 様 々 な 企 業 の 企 業 文 化 を み て い きます 。									
授 業 目 標 : 企 業 の 理 解 が 深 ま り ます 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス：企業文化とは何か。企業・産業とは。業種・業態とは。企業文化と企業風土、社風、社是。				事前：用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約(A4,1枚)			講義	
2	企業文化論の興り：学説研究 J.A.シュンペーター「創造的破壊」、P.F.ドラッカー「企業文化は戦略に勝る」他				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
3	企業文化の形成 1：経営者 経営者、とくに創業者は会社の経営過程で独自の経営哲学を持つことが多い。彼らは何を感じ、何を会社の支柱にしようとするのか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
4	企業文化の形成 2：業種・業態 他企業との競争を免れることができない企業は独自の価値観・哲学を持つに至る。企業メッセージ“Inspire the Next”や“FUN TO DRIVE, AGAIN”は好例。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
5	企業文化の形成 3：地域性 かつての秋葉原や銀座、青山等にある企業群は独自の価値観があるとされる。地域が企業に及ぼす影響とは。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
6	企業文化の構成要素：ビジョンとミッション、人材他 企業の将来展望や職責が企業の成長にどう関連するか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
7	企業文化形成のメリットとデメリット：規律と自由 企業文化の形成は企業の成長・発展に資すると同時に足かせになるデメリットもある。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
8	企業文化論の周辺 1：ブランド 企業ブランドと企業文化の関係性はどうか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
9	企業文化論の周辺 2：表現 どのように企業文化論を表現し、従業員に浸透させるか。また社会にアピールするか				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
10	企業文化論の周辺 3：中小・零細企業、個人営業 小規模経営体や個人事業主には企業文化がないのか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
11	企業文化論の周辺 4：企業文化構築のインセンティブ何が経営者に 影響を及ぼすか。ステイブ・ジョブズは「私のビジネスモデルはピートリスだよ。」と言ったという。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
12	巨大企業の企業文化：最新企業の事例 GAF A にみる企業文化				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
13	企業文化と経済 1：ウォルマートの事例 “Everyday Low Price (EDLP)” は地域経済に貢献したか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
14	企業文化と経済 2：日本の経営 かつて日本の経営と呼ばれ、日本経済発展の一因と考えられていた。これを現在の視点で評価する。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
15	企業文化の今後：事例研究				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
教本： なし。(適宜、資料を配布します。)					参考文献： DVD “Wal-Mart : The High Cost of Low Price” (2005) (随時情報源を提示します。)				
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練にすためです。レポート・テーマはまとめてやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」(記述形式)を守ってもらいます。									
オフィスアワー：初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	企 業 文 化 論 II (Corporate Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	企 業 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
「企業文化のダイナミズムを読み解き、そのダイナミズムをマネジメントすることがリーダーないし経営者の仕事である」と言われます。その意味の理解を事例およびモデル学習によりながら深め、企業が自らの文化の確認・形成・再生・変革・創造を行う過程で「変わらぬもの」と「変えるもの」の見極めを通して企業文化のあり方を追求している姿を見ていきます。									
授 業 目 標 :									
企業文化の構造と機能の理解を深め、企業文化のダイナミズムをマネジメントする力を養います。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
2	企業文化のダイナミズムとリーダーシップ——企業文化論から見たリーダーシップの本質を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
3	企業文化の形成と定着の過程を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
4	事例1 リクルートの組織文化(1)：文化の形成・定着過程の経緯を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
5	事例1 リクルートの組織文化(2)：文化の形成・定着過程を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
6	事例1 リクルートの組織文化(3)：文化の形成・定着過程に関する課題学習を行う				事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分	
7	企業文化の固定化と逆機能の過程を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
8	事例2 JR西日本のトラブル(1)：文化の固定化・逆機能過程の経緯を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
9	事例2 JR西日本のトラブル(2)：文化の固定化・逆機能過程を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
10	事例2 JR西日本のトラブル(3)：文化の固定化・逆機能過程に関する課題学習を行う				事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分	
11	企業文化の変革の過程を説明する				事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
12	事例3 GEの変革(1)：文化の変革過程の経緯を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により経緯をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
13	事例3 GEの変革(2)：文化の変革過程を解説する				事前：教本1の読み取り 事後：ノート・教本1により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
14	事例3 GEの変革(3)：文化の変革過程に関する課題学習を行う				事前：教本1の熟読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分	
15	企業文化論のこれから——企業文化論の可能性について述べる				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学(第3版)』有斐閣、¥2,700+税					E. H. シャイン『企業文化』白桃書房、¥3,500+税				
2. 印刷資料も用います									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 し ます。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 し な い こ と が 大 前 提 で す。粘 り 強 い 学 習 努 力 を 期 待 し て い ます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ます。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	企業文化論Ⅱ (Corporate Culture Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	企業文化論Ⅰ (Corporate Culture Ⅰ) を履修していることが望ましい。							
授業概要： 企業文化論Ⅰ (Corporate Culture Ⅰ) では、その構成、メリット・デメリット、周辺問題等を講義しましたが、本講座では、主としてケース・スタディを行います。知名度の高い企業、特殊なモノを生産している企業、注目されている企業、さらに中小・零細企業、個人経営者も取り上げる予定です。									
授業目標： 本講座を受ける方は自ら企業をピックアップし、「〇〇社の企業文化」といったレポートが出せるようにして下さい。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)				事前・事後学習 (学習課題)			授業形態	
1	ガイダンス：講義の進め方、情報収集の方法、評価の方法、レポートの書き方等を説明する。予備資料を配布する。				事前：用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約(A4,1枚)			講義	
2	企業文化論のアウトラインの説明定義と意義、他の概念との比較				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
3	企業文化論から見る失敗事例 1：みずほ銀行 2021年、なぜみずほ銀行は多数のシステム障害を繰り返したのか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
4	企業文化論から見る失敗事例 2：東京電力 2011年の東日本大震災で福島第一原子力発電所がメルトダウンした。また新潟県の柏崎刈羽原発でも不祥事が続いている。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
5	企業文化論から見る失敗事例 3：日本大学アメフト部 2018年、日本大学アメリカン・フットボール部は悪質タックル問題で同部は窮地に立たされ、大きな社会問題に発展した。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
6	企業文化論から見る失敗事例 4：新型コロナ問題 アベノマスクや増えないPCR検査等未だに問題が絶えない。行政の失敗なのか、政治の失敗なのか。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
7	企業文化論から見る失敗事例 5：ファイアストーン 日本のタイヤメーカー、ブリジストン社が買収した米ファイアストーン社のタイヤがバーストして多くの死者を出した。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
8	企業文化論から見る成功事例 1：ホンダ マスキー法をクリアしたCVCCエンジン。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
9	企業文化論から見る成功事例 2：トヨタ カイゼンや「かんばん方式」。トヨタウェイ。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
10	企業文化論から見る成功事例 3：松下電器 (失敗から成功へ) 松下電器 (現パナソニック) の石油ファンヒーターで死亡事故が発生。大規模リコールで信頼を回復。リコールのモデルを作ったといわれている。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
11	企業文化論から見る成功事例 4：すかいらーく 「価値ある豊かさの創造」を掲げ、わが国の外食大手に成長。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
12	企業文化論から見る成功事例 5：コカ・コーラ 「成長は行動規範」の考え方とイノベーション。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
13	企業文化論から見る成功事例 6：モータウン "The Sound of Young America"を旗印に白人にもアピールするブラックミュージックの老舗。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
14	ケース・スタディ 1：				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
15	ケース・スタディ 2：				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義 60分とディスカッション 15分、発表 15分	
教本： なし。(適宜、資料を配布します。)				参考文献： なし。(随時情報源を提示します。)					
成績評価の方法、評価基準： 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練にします。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」(記述形式)を守ってもらいます。									
オフィスアワー：初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	基礎ゼミ I (Preliminary Seminar I)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>初めての大学生活に適應できるように、ポートフォリオによる自己管理をしながら自己肯定感を高め、多様な活動によってコミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>また、「教えてもらう」から「主体的な学び」への転換を図り、基礎学力の向上と具体的な学修スキルを身につけていく。基礎学力としての「読み・書き・プレゼンテーション力」は、実感を伴った学びを重ねて向上をするようにする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①大学生活に適應するように、ポートフォリオを活用して、目標管理、人間関係づくりをすすめる。</p> <p>②基礎学力（漢字力、語彙力、図書館活用等）の向上と、プレゼンテーション力の向上を図る。</p> <p>③大学生としての学修スキル（ノートの取り方、レポートの書き方、パワーポイント作成等）を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	聴解力 ・ガイダンスを聞き基礎ゼミ I からの4年間を見通す プレゼン力・レジュメを作って自己紹介をする					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習	
2	自己決定力 ・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		講義・演習	
3	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオの記入、自己目標と具体的な取り組みを決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：清書して提出		講義・演習	
4	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
5	コミュニケーション力（並行して漢字力・文章読解の課題） ・ポートフォリオを元に個別面談					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
6	アイデンティティ形成、コミュニケーション力 ・スポーツ大会の出場種目を相談して決める					事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題		演習	
7	アイデンティティ形成、コミュニケーション力 ・スポーツ大会に参加し、応援する					事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文を書く		実習	
8	聴解力、要約力、レジュメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」 ・ノートの目的、テクニック					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
9	聴解力、要約力、レジュメ力 ・「講義を聞いてノートを取る」 ・実践して、検証する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	図書館活用力、聴解力 ・図書館の利用（大学図書館、厚木図書館 要予約）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
11	読書力、読解力 ・ビブリオバトルをしよう ・方法を理解し、ワークシート作成					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
12	読書力、プレゼン力（グループワーク） ・ビブリオバトルを実践する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	聴解力、要約力 ・「情報整理」「本を読む」 ・要約のスキル、読書ノートの作成法					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理		講義・演習	
14	ディスカッション力、思考力 ・提示された文章を要約し、意見をまとめ、グループで討議する					事前：資料や原稿のチェック 事後：振返りをする		演習	
15	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の問題） ・ポートフォリオに振り返りを記入する。必要に応じて面談する。					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習	

16	アイデンティティ形成（並行して漢字力、文章読解力の問題） ・ポートフォリオに後期目標を記入する。必要に応じて面談する。	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
17	ディスカッション力、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（準備）① 出店に関して相談し、見通しをもつ	事前：出店の考えを持つ 事後：担当教員が指示した課題	演習
18	理解力、レジメ力、PCスキル ・パワーポイント作成の方法 文字入力、見出し、箇条書き等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	プレゼン力、要約力、PCスキル ・パワーポイント作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
20	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（準備）②	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
21	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（当日）③	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
22	聴解力、読解力、要約力 ・「問いを立てる」「レポートを書くとは」構成、原則、引用等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義
23	構成力、要約力、情報収集力（教材は、担当教員が選択、工夫） ・小レポート作成① 構成、資料収集、	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	プレゼン力、表現力、PCスキル ・小レポート作成① パワーポイント作成 原稿作成	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	プレゼン力、表現力、コミュニケーション力 ・小レポート作成① 発表 感想交流	事前：資料や原稿のチェック 事後：資料作成、構成を考える	演習
26	構成力、文章力、情報収集力 ・個人レポート作成(1) 問いを立てる、アウトライン、資料読み	事前：資料作成、構成を考える 事後：資料作成、構成を考える	演習
27	プレゼン力 ・個人レポート作成(2) レポート文章作成、資料、	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	プレゼン力 ・個人レポート作成(3) 発表 感想交流	事前：担当教員が指示した課題 事後：感想文（振返り）を書く	演習
29	就職力【キャリアガイダンス①】 ・ライフキャリアについて（県またはキャリアセンターによる）	事前：進路について考える 事後：感想文（振返り）を書く	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオにふりかえりを記入して提出	事前：ポートフォリオの下書き 事後：なし	演習
教本： ・「アカデミック・スキルズ」大学生のための知的技法入門 ￥1,000+税 慶応義塾大学出版会 ・必要な資料を配付します。		参考文献： 漢字検定問題集（多く出版されています。目標に合わせて用意してください。） その他については授業時に指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 大学生活が始まりました。心機一転、新たな気持ちで多くの人と関係を結び、新しい学びに一生懸命に取り組みましょう。基礎ゼミは週に1回ですが、一番多くのメンバーと会える時間ですから休まずに出席すること。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年 次 通 年	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	基 礎 ゼ ミ Ⅱ (Preliminary Seminar Ⅱ)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員									
履 修 条 件	前 提 科 目	基 礎 ゼ ミ Ⅰ							
	そ の 他	な し							
<p>授業概要：</p> <p>ポートフォリオを作成することで、次のステップでの自分をイメージし、自律した大学生活を送りながら自己理解を深める。</p> <p>学修面では、専門科目への興味・関心を持続しながら専門用語の理解、論理的な考えの展開の仕方等を学び、いっそうの基礎力向上とプレゼンテーション能力を高める。また、3年次に向けて卒業後を見据えたキャリアデザインを考えていく。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①大学生活の充実を図るように、自己目標を設定、管理して、人間関係を広げたり協働したりして自己理解を深める。</p> <p>②基礎学力の向上とともに、学修スキルとして、論理的なレポートの書き方や、専門科目の理解、グループワーク、プレゼンテーション力のいっそうの向上を目指し、主体的に学ぶ。</p> <p>③3年次に向けて、職業の選択肢を検討し、具体的な進路登録カードが作成できるようにする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	聴解力 ・基礎ゼミⅡの1年間の見直しをもつ 自己決定力・履修指導を受けながら時間割表を作成する					事前：なし 事後：履修届を提出する		講義・演習	
2	アイデンティティ形成、自己決定力 ・取得できる免許や資格情報を参考に目標を設定する					事前：ポートフォリオ下書き 事後：目標の内容を再考		講義・演習	
3	コミュニケーション力（並行して漢字力の課題） ・ポートフォリオを元に、個別面談する。					事前：担当教員が指示した課題 事後：ポートフォリオ提出		講義・演習	
4	聴解力、レジュメ力 ・「情報収集の基礎」の講義 情報に対する態度、文書資料					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
5	聴解力、レジュメ力 ・レポート力・「情報収集の基礎」の講義 資料検索の方法-データベース活用					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		講義・演習	
6	聴解力、レジュメ力 ・「本を読む」の講義 批判的論理的思考（自分の考え＝思考力）					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
7	文章力、思考力 ・「本を読む」の講義 ・クリティカルリーディングとその練習					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		実習	
8	就職力、集中力、聴解力 【キャリアガイダンス①】 【税の話】 税務署員の講話を聴く					事前：担当教員が指示した課題 事後：情報整理、感想を書く		演習	
9	集中力、読解力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを理解し、論文を読む					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
10	集中力、文章力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを書く					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
11	プレゼン力 ・「本を読む」【論文】 クリティカルレビューを発表する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
12	思考力、プレゼン力 ・「情報整理」KJ法の講義 KJ法でグループの意見を整理する					事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習		演習	
13	レポート力（PCスキル） ・「情報整理」EXCELの使い方の基本を知る					事前：担当教員が指示した課題 事後：授業の復習		演習	
14	プレゼン力、自主性 松蔭祭での発表に向けて① ・プレゼンかポスターか テーマについて話し合う					事前：テーマを考える 事後：進め方、方法を考える		演習	
15	アイデンティティ形成（並行して、基礎力ワーク） ・ポートフォリオに振り返りを記入・面談					事前：前期を振り返る 事後：ポートフォリオ提出する		演習	

16	アイデンティティ形成、自己決定力（並行して、基礎力ワーク） ・ポートフォリオに後期の目標、具体的な取り組み記入 ・面談	事前：目標を考える 事後：清書して提出する	講義・演習
17	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 松蔭祭での発表に向けて② ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
18	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 松蔭祭での発表に向けて③ ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
19	プレゼン力、主体的・協働的な態度の育成 松蔭祭での発表に向けて④ ・クラス単位で、担当教員の指導による	事前：準備を進める 事後：準備を進める	演習
20	アイデンティティ形成、主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（準備）【別に前日準備あり】	事前：準備を進める 事後：準備を進める	実習
21	アイデンティティ形成 主体的・協働的な態度の育成 ・松蔭祭（当日）【授業として出席】	事前：担当教員が指示した課題 事後：担当教員が指示した課題	実習
22	就職力、聴解力 【キャリアガイダンス②】 【ライフキャリアを考える】	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	講義・演習
23	就職力 ・漢字検定、資格試験、就職試験等の準備をする	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
24	問題発見力 個人テーマのレポート作成① ・テーマ決定 問い 情報・資料収集等	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
25	要約力、読解力 個人テーマのレポート作成② ・アウトライン、資料読みを進める 精読カード等	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
26	読解力、文章力、 個人テーマのレポート作成③ ・レポート作成	事前：資料や原稿のチェック 事後：振り返りをする	演習
27	プレゼン力、コミュニケーション力 個人テーマのレポート作成④ ・グループ代表を選ぶ 代表によるプレゼンテーション	事前：担当教員が指示した課題 事後：ノート整理、授業の復習	演習
28	聴解力、就職力 【キャリアガイダンス③】 ・就職情報会社による講義	事前：なし 事後：感想文を書く	講義
29	就職力、アイデンティティ形成 【キャリアガイダンス④】 ・進路登録カード作成	事前：進路について考える 事後：担当教員に提出	講義・演習
30	アイデンティティ形成 ・ポートフォリオに振り返りをして提出する	事前：ポートフォリオの記入 事後：なし	演習
教本： ・「アカデミック・スキルズ」大学生のための知的技法入門 ￥1,000+税 慶応義塾大学出版会 ・必要な資料を配付します。		参考文献： 授業時に指示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート（60%）等で総合評価します。			
学生へのアドバイス： 2年次は基礎から専門へのかけ橋になる学年です。自らの目標に向かって学んで行くことを支えます。授業の時間を大切にすること、分からないときや困ったときには自分から行動することが大事になります。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	キャリアデザイン (Career Design)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	宝子山嘉一・佃 直毅・山本直毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他								
授業概要： ライフキャリア（人生を通じたキャリア形成）の視点からキャリアをとらえ、自己理解のツールを活用することによって自己について深く見つけ直す機会を持ち、自らのキャリアを築くためのマインドを養う。									
授業目標： ①自らのキャリアの在り方を言語化できる。 ②さまざまな自己理解ツールを体験的に知り、他社に説明できる。 ③自分のキャリアプランを立てられる。 ④これらを通して自己表現力を高める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：授業の概要を把握する 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
2	キャリアデザインとは					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
3	社会とつながる					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
4	ライフキャリアの考え方					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
5	キャリアデザインの意義と必要性					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
6	社会が求める能力					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
7	自分探し①（ライフラインチャート）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
8	自分探し②（自分の強み）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
9	自分探し③（価値観分析）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
10	自分探し④（イメージネーションツリー）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
11	自分探し⑤（will, can, must 分析）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
12	自分探し⑥（自分のモットー）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
13	キャリアプラン① キャリア。マニフェストの作成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
14	キャリアプラン② グループで自分のキャリア。マニフェストをシェア					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
15	キャリアプラン③ 自分のキャリア・マニフェストを発表					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 20分 発表 70分	
教本： 教材は授業時に配布する					参考文献： 参考文献・参考資料は適宜紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、授業態度（30%）、演習成果の提出物（40%）総合評価する。出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。以上詳細については第1回ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： 変化の激しい現在の世の中では、自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通じて考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	キャリアデザイン基礎 (Introduction to Career Design)						科 目 分 類	基礎科目	
担 当 教 員	宝子山嘉一・佃 直毅・山本直毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他								
授業概要： ライフキャリア（人生を通じたキャリア形成）の視点からキャリアをとらえ、自己理解のツールを活用することによって自己について深く見つけ直す機会を持ち、自らのキャリアを築くためのマインドを養う。									
授業目標： ①自らのキャリアの在り方を言語化できる。 ②さまざまな自己理解ツールを体験的に知り、他社に説明できる。 ③自分のキャリアプランを立てられる。 ④これらを通して自己表現力を高める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 （ 詳 細 に 記 入 ）					事 前 ・ 事 後 学 習 （ 学 習 課 題 ）		授 業 形 態	
1	ガイダンス					事前：授業の概要を把握する 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
2	キャリアデザインとは					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
3	社会とつながる					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
4	ライフキャリアの考え方					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
5	キャリアデザインの意義と必要性					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
6	社会が求める能力					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
7	自分探し①（ライフラインチャート）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
8	自分探し②（自分の強み）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
9	自分探し③（価値観分析）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
10	自分探し④（イメージネーションツリー）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
11	自分探し⑤（will, can, must 分析）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
12	自分探し⑥（自分のモットー）					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
13	キャリアプラン① キャリア。マニフェストの作成					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
14	キャリアプラン② グループで自分のキャリア。マニフェストをシェア					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
15	キャリアプラン③ 自分のキャリア・マニフェストを発表					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 20分 発表 70分	
教本： 教材は授業時に配布する					参考文献： 参考文献・参考資料は適宜紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、授業態度（30%）、演習成果の提出物（40%）総合評価する。出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。以上詳細については第1回ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： 変化の激しい現在の世の中では、自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通じて考えていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	キャリアデザイン研究 (Study of Career Design)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	宝子山嘉一								
履 修 条 件	前提科目	キャリアデザイン基礎							
	その他								
授業概要： 学生のキャリア及び就職に関する意識を醸成することによって、就職活動マインドを育み、就職活動へのスムーズな踏み出しを支援する。									
授業目標： ①働くことの意義、社会で求められる能力、企業・業界・職種の知識について理解し、就職活動準備をする。 ②自分自身について理解する。 ③コミュニケーションとは何かを理解し、グループワークやプレゼンテーションを通じて実践する力を身につける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス（「キャリアデザイン研究」の位置づけ）					事前：授業の概要を把握する 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
2	社会と仕事を知る① 働くとは					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
3	社会と仕事を知る② 会社と組織					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
4	コミュニケーション力をつける① コミュニケーションの基礎					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
5	コミュニケーション力をつける② アサーション					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
6	コミュニケーション力をつける③ グループワーク①					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
7	社会と仕事を知る③ 求められる能力とは					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
8	社会と仕事を知る④ 会社選びと就職活動					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
9	コミュニケーション力をつける④ グループワーク②					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
10	コミュニケーション力をつける⑤ グループワーク③					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
11	自分を知る① キャリアアンカー					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
12	自分を知る② 好きな役割					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
13	社会と仕事を知る⑤ 会社・業界					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
14	社会と仕事を知る⑥ 職種・資格					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 40分 グループワーク 50分	
15	キャリアデザイン課題発表					事前：前回の配布資料を読む 事後：今回の配布資料の読み返し		講義 20分 発表 70分	
教本： 教材は授業時に配布する					参考文献： 参考資料は適宜紹介する				
成績評価の方法、評価基準： 授業内容への参加状況等（30%）、授業態度（30%）、演習成果の提出物（40%）総合評価する。出席回数が2/3以上に満たない場合は評価の対象としない。以上詳細については第1回ガイダンスで説明するので、必ず出席すること。									
学生へのアドバイス： 自分のキャリアは自分の力で考えて作っていくことが求められます。自分の将来や大学生活を豊かにしていくためにはどうしたらよいか、講義を通じて考え、今後の就職活動につなげましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育課程・保育課程論 (Curriculum and Early Childhood Education Courses) (子ども)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	濱中 啓二郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 保育の計画の意義と必要性、保育の計画の歴史を理解し、実際の教育課程、保育課程、指導計画を例に取った分析や評価・改善について学ぶ。また、保育の計画の基準となる「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の基本を理解する。保育制度が急激に変化している中、教育課程・保育課程を知ることで、新しい保育を考え、組み立てる力を養うとともに、保育の計画全体を把握することで、保育の基本を見直す機会とする。									
授業目標： 教育課程・保育課程の意味、果たす役割をとらえ、教育課程・保育課程の編成の重要性を理解するとともに、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえた教育課程・保育課程の編成の在り方、評価・改善していくためのカリキュラム・マネジメントについて理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション（授業の進め方と評価について） カリキュラムの意味と保育計画					事前：特になし 事後：本授業の復習		講義 90分	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針の理解：カリキュラム・マネジメントとは					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
3	幼稚園・保育所の歴史とカリキュラム（明治期・大正期・昭和期・平成期）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
4	認定こども園の歴史・法律・カリキュラム（創設の背景とその役割）					事前：歴史・思想の確認 事後：本授業の復習		講義 90分	
5	幼稚園教育要領・保育所保育指針の歴史的展開					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
6	絵本を用いた保育実践と教育課程・保育課程					事前：指針、要領の講読 事後：本授業の復習		講義 90分	
7	乳幼児期の子どもの発達と保育の計画					事前：子どもの発達の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
8	指導計画作成に当たっての基本的な考え方					事前：指導計画の理解 事後：本授業の復習		講義 90分	
9	指導計画作成の実際					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
10	幼稚園・保育所における指導計画の基本的な考え方と留意点					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
11	生涯学び続ける力の育成と教育課程・保育課程					事前：テキストを読む 事後：本授業の復習		講義 90分	
12	地域社会を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：地域について知る 事後：本授業の復習		講義 60分、 グループ活動 30分	
13	命を大切にすることを培う保育実践と教育課程・保育課程					事前：道徳について知る 事後：本授業の復習		講義 90分	
14	自然環境を生かした保育実践と教育課程・保育課程					事前：環境について調べる 事後：本授業の復習		講義 90分	
15	教育課程・保育課程の評価と今後の展望					事前：考えをまとめる 事後：特になし		講義 60分、 グループ討議 30分	
教本： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館(2017年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館(2017年告示) 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館(2017年告示) 谷田貝公昭・石橋哲成監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社(2018年)					参考文献： 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』フレーベル館(2013年)				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 「保育所保育指針」や「幼稚園教育要領」には目を通しておいてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習	
授業科目(英文)	教育実習 I (幼稚園) (Teaching Practice at Kindergarten I)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	大沢 裕・中村淳子・野末晃秀・野川智子									
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導 I								
	その他	2 年次末までに修得しなければならない専門科目 (卒業必修科目) 38単位のうち30単位以上を修得していること。								
<p>授業概要：</p> <p>幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習 I と教育実習 II をそれぞれ 3 年生と 4 年生でそれぞれ 2 週間ずつ履修しなければならない。教育実習 I (幼稚園) 2 週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>教育実習 I (幼稚園) では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 ・幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 ・幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 ・幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。 										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
			○			◎				
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
<p>1 教育実習の計画…3 年次 2 週間の教育実習計画について知る。</p> <p>2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。</p> <p>3 3 歳児とのかかわり…①遊びに参加することで 3 歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通した学びとはどのようなものであるのかを考察する。 担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ② 3 歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>4 4 歳児とのかかわり…① 4 歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで 4 歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助の実際を学ぶ。 ② 4 歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>5 5 歳児とのかかわり…① 5 歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで 4 歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実際を学ぶ。また、「修了までに育てほしい 10 の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ② 5 歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、部分実習に向けた準備を行う。</p> <p>7 部分実習 I …指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。</p> <p>8 部分実習 II …改善した新たな指導案の下、新たな部分実習を行う。反省評価をする、実習園からの指導を受ける。</p> <p>9 2 週間の振り返り…教育実習 I 全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り今後の課題を明確にする。</p> <p>※事前事後指導については教育実習事前事後指導 I の授業で行う。</p>										
<p>教本：</p> <p>久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開』萌文書林 (ISBN：4893470760)</p> <p>相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習一実習日誌の書き方』萌文書林 (ISBN：4893470817)</p>					<p>参考文献：</p> <p>「幼稚園教育要領解説」</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習園からの評価 (60%)、実習日誌による評価 (40%) (実習日誌に部分指導案を添付することを評価の条件とする)。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年時から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 ・紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアターやペープサートなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 ・ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。 										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p> <p>実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。</p>										

開 講 年 次	4 年次 通年	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	実習
授業科目(英文)	教育実習Ⅱ(幼稚園)(Teaching Practice at Kindergarten II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕・中村淳子・野末晃秀								
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導Ⅱ							
	その他	教育実習(幼稚園)Ⅰ							
<p>授業概要：</p> <p>幼稚園教諭一種免許状取得のためには、教育実習Ⅰと教育実習Ⅱをそれぞれ3年生と4年生でそれぞれ2週間ずつ履修しなければならない。教育実習Ⅰ(幼稚園)2週間の観察実習及び参加実習等を通して、授業で学んだ幼児の発達や幼児への関わりなどをより具体的な場面で学び、幼稚園教育がどのような目標のもとに実現されていくのかを確認し実際の幼稚園教諭の仕事の仕方にも触れながら将来への希望や期待をもって自己課題を模索していくものとする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>教育実習Ⅰ(幼稚園)では保育観察・保育参加・部分実習を基本とし、主に以下について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の役割や機能、一日の流れについて。 ・幼稚園教諭の役割や職務内容の理解。 ・幼児の発達段階に応じた環境や教材について学ぶ。 ・幼児とのかかわりを通して幼児理解の目を養うとともに幼児期にふさわしい保育内容及び指導・援助を学ぶ。 									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			○			◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
<p>1 教育実習の計画…4年次2週間の教育実習計画について知る。</p> <p>2 事前学習：事前に実習園でのオリエンテーションを受ける…実習園の特徴や保育方法や教育方針について理解する。実習中の行事や予定や生活の流れ事前準備などについて確認する。</p> <p>3 3歳児とのかかわり…①遊びに参加することで3歳児の遊びの楽しさはどこになるのか、それを通した学びとはどのようなものであるのかを考察する。 担任の動きや援助の実践を学ぶ。 ②3歳児の興味にあった手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>4 4歳児とのかかわり…①4歳児クラスで幼児と関わり遊びに加わり参加することで4歳児の遊びの楽しさを感じ取る。 また、担任の動きや援助意図やねらいを読み取り実習生として子どもへ積極的にかかわる。 ②4歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>5 5歳児とのかかわり…①5歳児クラスで幼児の遊びに加わり参加することで5歳児の遊びの楽しさを感じ取るとともに担任の動きや援助の実践を学ぶ。また、「修了までに育てほしい10の姿」を実際の遊びの中から考察する。 ②5歳児にふさわしい、手遊びや絵本や紙芝居の読み聞かせなどをする。反省評価をする。</p> <p>6 部分指導案の作成…部分指導案を作成し、実習園からの指導を受け、一斉活動の部分実習に向けた準備を行う。</p> <p>7 部分実習Ⅰ…指導案に沿って実際の保育を展開する、反省評価をする、実習園からの指導を受ける。</p> <p>8 一日実習…責任実習とも言う。登園から降園までの一日の流れを考え、ねらい、内容を幼児の実態に即して立て、一日実習の指導案を作成する。事前に、担任の指導を受け実践する。(一斉活動の内容など楽しいものを考える)</p> <p>9 2週間の振り返り…教育実習Ⅱ全体について実習園の担当教員より指導を受け、自ら振り返り今後の課題を明確にする。</p> <p>※事前事後指導については教育実習事前事後指導Ⅱの授業で行う。</p>									
<p>教本：</p> <p>相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習—実習日記の書き方』萌文書林(ISBN:4893470817)</p> <p>久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技—児童文化財の魅力とその活用・展開—』萌文書林(ISBN:4893470760)</p>					<p>参考文献：</p> <p>「幼稚園教育要領解説」</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説」</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習園からの評価(60%)、実習日誌による評価(40%)(実習日誌に一日指導案を添付することを評価の条件とする)。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年時から学んできた幼稚園教育の目標や幼児期の子どもの発達、指導計画の作成などについて復習しておく。 ・紙芝居、絵本手遊びなど授業で体験してきたことをもとにパネルシアターやペープサートなどの教材を事前にいくつか作成しておく。 ・ピアノなど保育技術を磨き、オリエンテーションで示された曲が弾けるように事前に練習し実習に臨む。 									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p> <p>実習前に必ず面接し、準備したことが確認できるよう、オフィスアワーの活用を呼び掛ける。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導 I (幼稚園) (Pre- & Post-Guidance on Teaching Practice I (Kindergarten))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	大沢 裕・中村淳子・野末晃秀・野川智子								
履 修 条 件	前提科目	2 年次までに修得しなければならない専門科目 (卒業必修科目) 38単位のうち30単位以上を修得していること。							
	その他								
<p>授業概要： 教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。 指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。 作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。 実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、次の実習に向けての準備をどのようにしていくか考える機会を持つ。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。</p>									
<p>授業目標： 幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習1の意義と目的・内容について学ぶ。幼稚園の一日の流れ					事前：教育実習の手引きを読んでおく 事後：一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成 (1) ねらいと内容、保育の展開、環境の構成、など書き方の基本を学ぶ。 ①「朝の受け入れ」の部分指導案を作成する					事前：一日の流れを復習しておく 事後：(1)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成 (2) 降園時の活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①② (2人ずつ新しい曲にチャレンジ (皆の前で演じる))					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(2)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成 (3) 紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(3)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成 (4) 歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前：実技の担当者は練習しておく 事後：指導案(4)-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育 (1) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育 (2) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育 (3) 指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育 (4) ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど実習日記の具体的記入の仕方を学ぶ。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前：実習の手引きを持参する 事後：教科書と手引きと日誌を照らし合わせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて学ぶ 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前：実技の準備をしておく 事後：実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩					事前：実技の練習に向き合う 事後：実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成					事前：教材を作成して持参する 事後：指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 実習日誌の提出、個別面談 (1)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして次回の実習へ課題をもてるようにする。 個別面談 (2)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
<p>教本： 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習－実習日記の書き方』萌文書林 (ISBN：4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技－児童文化財の魅力とその活用・展開－』萌文書林 (ISBN：4893470760)</p>					<p>参考文献： 「幼稚園教育要領解説」 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説】</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：平常の授業参加状況等 (20%)、実技・模擬保育等 (40%)、指導案作成・提出物 (40%) 等で総合評価する。(尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする)</p>									
<p>学生へのアドバイス： 教育実習生として事前に身につける必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。 教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価票に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。</p>									

開 講 年 次	4 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	授業・演習
授業科目(英文)	教育実習事前事後指導Ⅱ(幼稚園)(Pre- & Post-Guidance on Teaching PracticeⅡ(Kindergarten))							科目分類	専門科目
担 当 教 員	大沢 裕・中村淳子・野末晃秀								
履 修 条 件	前提科目	教育実習事前事後指導Ⅰ(幼稚園)及び教育実習Ⅰ(幼稚園)を修得していること。							
	その他								
<p>授業概要： 教育実習の意義や目的について理解し、幼稚園における実習生として自分がどのように学んでいくか、明確な課題をもって取り組めるように意識を高めていく。 指導計画から指導案までの仕組みを理解するとともに、実習ノートの書き方について理解するようになる。さらに、幼児の発達段階に応じた指導内容を理解し、ふさわしいねらいを立てて指導案を作成することができるよう部分指導案の作成の仕方を学ぶ。 作成した指導案をもとに保育の展開、環境構成がふさわしいか模擬保育を通して振り返り改善していく。また、幼児の気持ちの理解や担任としての言葉使いなど保育に必要な基礎的技術を学び、実習への意欲付けをしていく。 実習後の振り返りを通して自己課題を見出し、自分の課題を克服し、就職へ向けての意欲につなげる。お礼状の書き方など具体的に学び、実習後の実習生としての姿勢やあり方を確認していく。</p>									
<p>授業目標： 幼児理解に基づき、幼稚園において教育実習生として保育観察、参加を経て部分実習を行うために必要な実践的指導力を身につける。日々教育活動が展開されている園において教員としての自覚と幼児への愛情をもって関わることのできる基礎を身につけていく。教育実習の学びを通して教育者としての資質・能力や適性を自覚し、振り返りを通して自己課題を見出しさらなる実践力を高めるための意欲を持つようになる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○						◎			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態	
1	オリエンテーション、教育実習Ⅰの意義と目的・内容について学ぶ。幼稚園の一日の流れ					事前：教育実習の手引きを読んでおく 事後：一日の流れのプリントを仕上げ次回提出		講義	
2	指導案の作成(1)ねらいと内容、保育の展開、環境の構成、など。 ①自分で実習中に行う活動計画を立てる。					事前：一日の流れを復習しておく 事後：(1)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
3	指導案の作成(2)自分で実習中に行う部分実習に関する活動の指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び実技①②(2人ずつ新しい曲にカヤレンジ(皆の前で演じる))					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(2)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
4	指導案の作成(3)紙芝居、絵本の読み聞かせの部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び③④					事前：手遊び実技の担当者は練習しておく 事後：(3)指導案を仕上げ次回提出		講義・演習	
5	指導案の作成(4)歌の指導、ゲームなど部分指導についての部分指導案を作成する。 ピアノ弾き歌い・手遊び⑤⑥					事前：実技の担当者は練習しておく 事後：指導案(4)-1、2を仕上げ次回提出		講義・演習	
6	模擬保育(1)指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑦⑧(ふれあいあそびなど)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
7	模擬保育(2)指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑨⑩(一斉活動・作って遊ぶ)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
8	模擬保育(3)指導案をもとに担任役と園児役になって保育の場面のロールプレイをする。ピアノ弾き歌い・手遊び⑪⑫(一斉活動・ゲームなど)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
9	模擬保育(4)ロールプレイから振り返り、保育に必要な基本的技能や言葉使いについて学ぶ。ピアノ弾き歌い・手遊び⑬⑭(一日指導案を作成する)					事前：指導案を事前に作成し人数分印刷しておく 事後：直したものを次回提出		演習	
10	個人調書の書き方・幼稚園教育実習の個人目標の設定 実習日誌の書き方・保育記録・実習生の気づきなど書き方の再確認をする。保育の中での声かけなど出し合う。絵本・紙芝居の実演①②③④					事前：実習の手引きを持参する 事後：教科書と手引きと日誌を照らし合わせる		講義・演習	
11	一日の振り返り・実習全体の反省・お礼状の書き方などについて再確認をする。 絵本・紙芝居の実演⑤⑥⑦					事前：実技の準備をしておく 事後：実技を振り返り改善する		講義・演習	
12	絵本・紙芝居の実演⑧⑨⑩(3、4、5歳児・季節にふさわしいものを選ぶ)					事前：実技の練習に向き合う 事後：実技を振り返り改善する		演習	
13	実習の手引きを熟読し身だしなみの確認 実習準備にあたる教材の作成・指導案の作成(3、4、5歳児にふさわしいものを作る)					事前：教材を作成して持参する 事後：指導案を作成して持参する		講義	
14	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして自己課題をもち課題にする。 実習日誌の提出、個別面談(1)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
15	実習後の評価表に基付き個別の振り返りをして自己課題をもち克服する気持ちを高め ていく。個別面談(2)					事前： 事後：実習後の反省		教員との面談	
<p>教本： 「幼稚園教育実習の手引き」松蔭大学作成 相馬和子・中田カヨ子編、2018『幼稚園・保育所実習-実習日記の書き方』萌文書林(ISBN:4893470817) 久富陽子編、2008『実習に行くまえに知っておきたい保育実技-児童文化財の魅力とその活用・展開-』 萌文書林(ISBN:4893470760)</p>						<p>参考文献： 「幼稚園教育要領解説」 【幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説】</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準：平常の授業参加状況等(20%)、実技・模擬保育等(40%)、指導案作成・提出物(40%)等で総合評価する。(尚、全授業出席しない場合には実習に参加できないこととする)</p>									
<p>学生へのアドバイス： 教育実習生として事前に必要な指導案の作成ができているか、実際のロールプレイを通して実践的な力を身につけたか、実際の教材を作成しているか確認していく。 教育実習に向けて具体的な自己課題を持って実習に臨むことができたか、実習後の振り返りと園からの評価表に基づき個別面談を通して実習の成果を確認する。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。指導案作成など具体的な内容について個別指導できるようオフィスアワーを設けている。活用して十分な準備ができるようにする。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	教育心理 (Educational Psychology)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	中村 淳子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 教育心理学は教育実践と深く結びついた学問です。教育者を目指す人は、より良い教育活動を行うために子どもや児童・生徒を深く理解し、その発達援助に貢献しなくてはなりません。そのため本講座では、人の発達過程、学習行動、学級集団がもたらす人間関係の発達や不適応問題など様々な側面から教育実践に関する知識と理解を深めることを目指します。また、「合理的配慮」の法案が成立したことの意義も鑑みて、発達障害等の理解、特別支援教育についても事例を踏まえて学んでいきます。									
授業目標： 1. 人間の発達や成長の過程を学び、教育活動に生かす方法を考える。 2. 学習行動のメカニズムや集団の心理を学び、効果的な教授法を考える。 3. 問題行動や障害について理解を深め、支援方法について学ぶとともに教育者としての資質について考える。 4. この科目は、①幼児期の子どもの発達について、多角的かつ総合的な理解力を有する人材を養成する科目である。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	教育心理学とは？－教育心理学の意義					事前：事後：教育心理学の意義についてまとめる		講義70分 振り返り20分	
2	発達を知ること－(1)発達理論					事前：発達理論の予習 事後：　　　　　　　　　まとめ		講義70分 振り返り20分	
3	発達を知ること－(2)各時期の発達の様相（乳児期～学童期）					事前：乳児期～学童期の発達について予習 事後：		講義70分 振り返り20分	
4	発達を知ること－(3)各時期の発達の様相（思春期～老年期）					事前：思春期～老年期について調べる 事後：講義2、3、4の復習		講義70分 振り返り20分	
5	学習行動を知ること－(1)学習理論					事前：学習について調べる 事後：学習理論のまとめ		講義60分 討議30分	
6	学習行動を知ること－(2)教授理論					事前：教えることについて考えておく 事後：教授理論のまとめ		講義60分 討議30分	
7	学習行動を知ること－(3)動機づけ理論					事前：動機づけについて調べる 事後：5、6、7の復習とノート整理		講義60分 討議30分	
8	知能と学力の関係を知ること－(1)知能の理論					事前：知能について調べる 事後：知能理論のまとめ		講義70分 振り返り20分	
9	知能と学力の関係を知ること－(2)知能と学力の関係					事前：学力について調べる 事後：8、9の復習とノートの整理		講義60分 討議30分	
10	教えることと評価すること－(1)評価することの意味					事前：評価について調べる 事後：評価の意味をまとめる		講義70分 振り返り20分	
11	教えることと評価すること－(2)より良い授業実践とは？					事前：授業実践の工夫を考えてくる。 事後：討議内容をまとめる		講義30分 討議60分	
12	学級集団と人間関係を知ること－人間関係の発達と集団					事前：集団について調べる 事後：10、11、12の復習とノートの整理		講義30分 討議60分	
13	問題行動と生徒理解－(1)適応・不適応と生徒理解					事前：適応・不適応について考えてくる。 事後：問題行動の理解をまとめる		講義30分 発表60分	
14	問題行動と生徒理解－(2)教育相談					事前：教育相談について調べる 事後：13、14の復習とノートの整理		講義30分 発表60分	
15	障害理解と支援－障害の種類と支援の方法					事前：障害について調べる 事後：障害支援についてまとめる		発表60分 講義30分	
教本： 使用しない。適宜、参考資料を配布。									
参考文献： 田中智志／橋本美保監修 遠藤司編著 新・教職課程シリーズ 教育心理学 一藝社 ￥2,200 子安増生／田中俊也／南風原朝和／伊東裕司著 ベーシック現代心理学 教育心理学第3版 有斐閣 ￥2,100									
成績評価の方法、評価基準： 評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 授業では、一方的な講義ではなく、学生に考えてもらう時間も用意します。また、単元によっては前もって発表者を決めておき、プレゼンテーションを行ってもらうこともあります。中村から質問したり、学生からの意見を受けたりなど活気のある授業にしたいと思います。受け身な態度ではなく、自身の考えを表現できるように心がけてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。水曜日の昼休み。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行政法Ⅰ (Administrative Law I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前提科目	なし (憲法学Ⅱの単位取得が望ましい)							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>行政法は、国や地方自治体の行政の目的を達成するための手段であるとともに、行政活動を行う国や自治体と個人との法律問題に関する枠付けである。本講義では、行政法総論（一般理論）のうち、行政法の基本原則、行政行為、行政手続について説明し、行政法の基本的理解を深めることを目的とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 行政組織に関する基礎的法概念、行政組織の内部関係法について理解を深めること</p> <p>2. 行政組織に関する法律論の基礎的な枠組みの修得をすること</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	行政法総論 —行政事件 行政組織 行政法と法律—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	行政法の歴史的展開					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
3	権力分立と行政の位置づけ —法律による行政の原理—					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
4	国の行政組織					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
5	地方の行政組織					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
6	行政主体と行政機関					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
7	行政主体の種類					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
8	行政機関の概念					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
9	行政機関の権限					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
10	行政機関の分類					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
11	行政手続の法理					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
12	行政行為の概念					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
13	行政行為の効力					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
14	行政裁量					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
15	行政機関の指揮監督					事前：配布プリント 事後：小テストの復習		講義	
<p>教本：</p> <p>『ポケット六法』（有斐閣）¥2,090。</p>					<p>参考文献：</p> <p>『行政法判例百選Ⅰ』（有斐閣）¥2,530 その他授業中に適宜指示。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることを法的視点で分析して行きたいと思う。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に示す。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義																																																																						
授業科目(英文)	行政法Ⅱ (Administrative Law Ⅱ)						科目分類	専門科目																																																																							
担 当 教 員	高乗 智之																																																																														
履 修 条 件	前提科目	なし (行政法Ⅰの単位取得が望ましい)																																																																													
	その他	憲法学Ⅰ																																																																													
<p>授業概要：</p> <p>授業概要：本講義では、「行政救済法」として位置づけられる内容を講義する。具体的には、行政不服審査法、行政事件訴訟法および国家賠償法といった実定法を通じ、違法・不当な行政活動から国民の権利・自由と利益を「救済」する法システムを学ぶ。前半は概論的な説明をし、後半は事例研究を中心に一緒に考えていきたいと思う。ここでは、行政法学の思考方法の理解や習得をめざしたい。</p> <p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共紛争の現状を分析する際の前提となる法的救済手続きの仕組みを知ること 2. 憲法学や行政法Ⅰで学んだ知識を現実の問題に適用して考える能力を養うこと <p>カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・技能の習得</td> <td>思考力・判断力・表現力の育成</td> <td>学びに向かう力・人間性の涵養</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> </table> <p>授業計画、事前学習・事後学習、形式</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>授業内容及び計画 (詳細に記入)</th> <th>事前・事後学習 (学習課題)</th> <th>授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行政救済法総論 一 損害賠償と行政救済の違い一</td> <td>事前：なし 事後：概念の整理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行政上の不服申立て</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行政不服審査法の基本構造</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>憲法と行政訴訟</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行政訴訟の類型</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>客観的訴訟要件</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>主観的訴訟要件</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>取消訴訟の審理、終了、仮の救済</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>当事者訴訟、無効確認訴訟、不作為の違法確認訴訟</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>義務付け訴訟、差止訴訟、民衆訴訟、機関訴訟</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>裁判権の限界</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>国家賠償法 (1)</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>国家賠償法 (2)</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>損失補償 (1)</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>損失補償 (2)</td> <td>事前：配布プリント 事後：小テストの復習</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> <p>教本：『ポケット六法』(有斐閣) ¥2,090。 参考文献：『行政法判例百選Ⅱ』(有斐閣) ¥2,530 授業中に適宜指示。 その他</p> <p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。</p> <p>学生へのアドバイス： 社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることを法的視点から分析して行きたいと思う。</p> <p>オフィスアワー： 初回講義日に示す。</p>										知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養	○	◎		授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態	1	行政救済法総論 一 損害賠償と行政救済の違い一	事前：なし 事後：概念の整理	講義	2	行政上の不服申立て	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	3	行政不服審査法の基本構造	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	4	憲法と行政訴訟	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	5	行政訴訟の類型	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	6	客観的訴訟要件	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	7	主観的訴訟要件	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	8	取消訴訟の審理、終了、仮の救済	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	9	当事者訴訟、無効確認訴訟、不作為の違法確認訴訟	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	10	義務付け訴訟、差止訴訟、民衆訴訟、機関訴訟	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	11	裁判権の限界	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	12	国家賠償法 (1)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	13	国家賠償法 (2)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	14	損失補償 (1)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義	15	損失補償 (2)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義
知識・技能の習得	思考力・判断力・表現力の育成	学びに向かう力・人間性の涵養																																																																													
○	◎																																																																														
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)	事前・事後学習 (学習課題)	授業形態																																																																												
1	行政救済法総論 一 損害賠償と行政救済の違い一	事前：なし 事後：概念の整理	講義																																																																												
2	行政上の不服申立て	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
3	行政不服審査法の基本構造	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
4	憲法と行政訴訟	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
5	行政訴訟の類型	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
6	客観的訴訟要件	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
7	主観的訴訟要件	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
8	取消訴訟の審理、終了、仮の救済	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
9	当事者訴訟、無効確認訴訟、不作為の違法確認訴訟	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
10	義務付け訴訟、差止訴訟、民衆訴訟、機関訴訟	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
11	裁判権の限界	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
12	国家賠償法 (1)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
13	国家賠償法 (2)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
14	損失補償 (1)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												
15	損失補償 (2)	事前：配布プリント 事後：小テストの復習	講義																																																																												

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近 代 文 学 研 究 A (散 文) (Study of Modern Japanese Literature A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 龍 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1) 国文学史を踏まえ、近代文学が抱えた困難と成立までを代表的作家の作品講読で解明・研究する。									
(2) 近代小説の基本的「〈読み〉の原理」を習得する。									
授 業 目 標 :									
(1) 小説講読による演習を中心に講義を進める。日本の近代小説の主流となった田山花袋等の「私小説」と森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、谷崎潤一郎等の「《他者性》を内包する小説」を比較して考察する。									
(2) 演習によって近代小説の「〈読み〉の方法」を身につける。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	・日本の近代化と文学 (オリエンテーション)					事前：なし 事後：感想200字		講義 60分、話し合い 30分	
2	・坪内逍遙「小説神髓」と言文一致の文体					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
3	・自然主義の日本化と田山花袋「蒲団」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
4	・田山花袋「蒲団」を読む					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
5	・森鷗外の自然主義批判と「高瀬舟」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
6	・森鷗外「高瀬舟」を読む I					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
7	・森鷗外「高瀬舟」を読む II					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
8	・芥川龍之介と近代小説「地獄変」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
9	・芥川龍之介「地獄変」を読む I					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 60分、 話し合い 30分	
10	・芥川龍之介「地獄変」を読む II					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
11	・夏目漱石の自然主義批判と「夢十夜」					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
12	・夏目漱石「夢十夜」を読む I					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 45分、 話し合い 45分	
13	・夏目漱石「夢十夜」を読む II					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		講義 30分、作品を読む 30分、 話し合い 30分	
14	・志賀直哉「城崎にて」を読み、「末期の目」の世界観認識を考える					事前：作品を読んてくる 事後：感想200字		作品を読む 30分、 話し合い 30分、講義 30分	
15	・「物語と小説」の峻別とは何か？					事前：なし 事後：感想1200字		講義 30分、まとめ 60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『語り論』が拓く文学の授業 (中村龍一著 ひつじ書房)					・授業時に紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。									
授 業 参 加 意 欲 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
レポ-ト課題をしっかりと提出する。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
水曜日昼休み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	近 代 文 学 研 究 B (韻 文) (Study of Modern Japanese Literature B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳 本 善 彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1) 日 本 近 代 文 学 に お け る 詩 の 流 れ を 学 び、代 表 的 詩 人 の 作 品 を 鑑 賞 す る。(2) 作 品 を 精 読 し、声 に 出 して 読 む こ と で 言 葉 の 新 し い 価 値 を 見 出 し、詩 の 世 界 を よ り 深 く 理 解 す る。									
授 業 目 標 :									
(1) 日 本 近 代 詩 史 を 踏 ま え、近 代 詩 人 の 代 表 的 作 品 を 鑑 賞 す る。(2) 基 本 的 な 詩 の 「読 み」か た を 習 得 し、レ ポ ー ト 課 題 を 通 じ て 自 分 な り の 作 品 論 を 書 く。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	「新 体 詩 抄」中 の 数 篇 の 詩 を 題 材 に して 近 代 詩 と は 何 か に つ い て 考 え ます。近 代 以 前 と の 違 い を 議 論 し ます。					事 前：散 文 に つ い て 調 べ る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
2	森 鷗 外 の 訳 詩 や 北 村 透 谷 の 試 論 を 題 材 に して 新 し い 詩 (ポ エ ト リ ー) に つ い て 考 え ます。問 題 点 を 話 し 合 い ます。					事 前：プ リ ン ト の 予 習 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
3	島 崎 藤 村 の 詩 を 基 に、浪 漫 主 義 と 恋 愛 に つ い て 考 え ます。問 題 点 を 話 し 合 い 議 論 し ます。					事 前：プ リ ン ト の 予 習 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
4	上 田 敏 「海 潮 音」な ど を 題 材 に、象 徴 主 義 の 詩 に つ い て 学 び ます。調 べ た こ と を 基 に 話 し 合 い ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
5	北 原 白 秋 の 詩 作 品 を 扱 い、「ふ る さ と」と い う 言 葉 の 歴 史 性 に つ い て 学 び ます。問 題 点 を 見 出 し 話 し 合 い ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
6	石 川 啄 木 と 短 歌。詩 以 外 の 短 詩 型 文 芸 に つ い て 学 び ます。近 代 以 前 の 作 品 と の 違 い を 考 え 議 論 し ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
7	萩 原 朔 太 郎 や 山 村 暮 鳥 な ど 「感 情」詩 派 の 作 品 に つ い て 学 び ます。「りん ご」や 「竹」な ど の モ チ ー フ に つ い て 議 論 し ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
8	大 正 期 の 詩 に つ い て。大 正 期 の 時 代 状 況、文 化 風 俗 に つ い て 学 び、詩 や 小 説 な ど の 文 芸 と の 関 わ り に つ い て 話 し 合 い ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
9	高 村 光 太 郎 「道 程」を 題 材 に し、改 稿 前 の テ ク ス ト と 読 み 比 べ る こ と で 問 題 点 を あ ぶ り 出 し 議 論 し ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
10	宮 沢 賢 治 「永 訣 の 朝」や 「オ ツ ベ ル と 象」な ど 詩 と 童 話 に つ い て 考 え 議 論 し ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
11	モ ダ ニ ズ ム と 短 詩 運 動。ダ ッ イ ズ ム や シ ュ ル レ ア リ ズ ム な ど に つ い て 学 び 短 詩 運 動 に つ い て 考 え ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
12	梶 井 基 次 郎 の 詩 を 扱 い な が ら、散 文 詩 に つ い て 考 え ます。詩 と 散 文 の 違 い が ど こ に あ る の か を 議 論 し ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
13	中 原 中 也 の 詩 を 扱 い な が ら、オ ノ マ ト ベ の 面 白 さ や 言 葉 の リ ズ ム に つ い て 学 び ます。問 題 点 を 話 し 合 い ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
14	草 野 心 平 の 詩 を 題 材 に して、「か え る」を モ チ ー フ に して 詩 を 書 き 続 け た こ と の 意 味 を 考 え 話 し 合 い ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：内 容 の ま と め		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
15	太 平 洋 戦 争 を 題 材 に し た 詩 を 数 篇 題 材 に して、戦 争 と 詩 の 問 題 に つ い て 考 え ます。考 え た こ と を ま と め て 発 表 し ます。					事 前：課 題 作 を 読 ん で く る 事 後：レ ポ ー ト 準 備		講 義 60 分、グ ル ー プ ワ ー ク 20 分、発 表 10 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『教 科 書 で 出 会 っ た 名 詞 100 選』(石 原 千 秋 編 新 潮 文 庫)					教 室 で 提 示 し ます。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 平 常 点 (50%)、定 期 試 験 (50%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 授 業 で 詩 を じ っ くり 読 ん で、レ ポ ー ト 課 題 に 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開講年次	1年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	金融概論Ⅱ (Introduction to Practical Finance Business Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	岡 猛夫								
履修条件	前提科目	経済、会計の科目をすでに履修していること。							
	その他	なし							
授業概要： 広範囲にわたる「金融」の主要項目について、勉強を進める。									
授業目標： 「金融」に関する一般的知識を学んで、さらに深いところを目指してほしい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス、金融とは					事前： 事後：まとめ		講義	
2～4	金融商品について	株式、債券など			事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習		
5～7	企業活動と金融	貸借対照表、資金調達、コーポレートファイナンス			事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習		
8～10	金融機関について	銀行、証券会社、保険会社など			事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習		
11～13	金融市場とは	株式市場、債券市場、外国為替市場			事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習		
14・15	金融政策について				事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習		
教本： 追って指示する					参考文献：				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等、小テスト・レポート・定期試験等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： ディスカッションの時間も多く取れればと思っているので、あらかじめテキストの下読みをしてもらうことが望ましい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金 融 政 策 論 (Theory of Monetary Policy)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金 融 概 論 ・ 経 済 原 論 を 履 修 し て い る こ と 。 マ ク ロ 経 済 学 ・ ミ ク ロ 経 済 学 を す で に 履 修 し て い る こ と 。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
ゼロ金利政策、アベノミクス、量的緩和などなど…金融政策は、誰が決定するのか、どのように実行されるのか、過去の歴史も振り返りながら、金融・経済に与える効果・影響について、その波及過程を把握し、理解する。									
授 業 目 標 :									
最終的には、金融政策の波及効果の分析が目標。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	金 融 政 策 の フ レ ム ワ ー ク					事 前 : な し 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
2	経 済 と 金 融					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
3	貨 幣 に つ い て					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
4	資 金 の 流 れ と 金 融 機 関					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
5	金 融 商 品 と 金 融 市 場					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
6	金 融 政 策 の 決 定 と 実 行					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
7	金 融 政 策 の 波 及 過 程					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
8	金 融 政 策 の 歴 史 1					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
9	金 融 政 策 の 歴 史 2					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義 課 題 レ ポ ー ト	
10	金 融 政 策 と 財 政 政 策					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
11	金 融 政 策 と 為 替 政 策					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
12	中 央 銀 行 の 役 割					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義 課 題 レ ポ ー ト	
13	イ ン フ レ タ ー ゲ ッ ト					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
14	デ フ レ に 対 す る 方 策					事 前 : 教 本 の 予 習 事 後 : 関 連 事 項 の 学 習		講 義	
15	量 的 質 的 緩 和 策					事 前 : 前 期 講 義 の 概 覧 事 後 :		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
「金融政策入門」湯本雅士著 岩波書店					「よくわかるファイナンス入門」石橋春男・高木信久・橋口宏行 慶應義塾大学出版会				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況、小 テ ス ト ・ 課 題 レ ポ ー ト の 提 出 お よ び 定 期 試 験 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
勉 強 範 囲 は 広 範 囲 に わ た り、ボ リ ュ ム も 多 い。勉 強 時 間 を 確 保 し て 欲 し い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金融統計学 I (Statistics for Finance I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金融・経済の主要科目をすでに履修していること。							
	そ の 他	なし							
授 業 概 要 : 統計データの信頼性の許容範囲を測定・分析するためのいろいろな統計手法について、勉強を進める。									
授 業 目 標 : 基本的な理解をふまえて、金融分野での統計学の適用について理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、統計学の体系、データの見方					事前： 事後：まとめ		講義	
2・3	基本統計量 度数分布表、代表値、平均値、分散・標準偏差					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
4・5	確率分布、確率変数、確率密度関数					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
6	正規分布、パーセント点					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
7	母集団と標本、母集団分布、標本分布					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
8・9	区間推定、カイ2乗分布、t分布					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
10・11	仮説検定、t検定、カイ2乗検定					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
12・13	相関分析、クロス集計表、相関係数、共分散					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
14	シャープレシオ、ボラティリティ、分散分析					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
15	分散分析、ベイズ統計学の概要					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
教 本 : 涌井 貞美「意味がわかる統計解析」ベレ出版					参 考 文 献 : 適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト ・ 定 期 試 験 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 統 計 デ ー タ の 持 つ 意 味、信 頼 性 に つ い て 普 段 か ら 考 え る よ う に し て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	4 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	金融統計学Ⅱ (Statistics for Finance Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	岡 猛 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	金融・経済の主要科目をすでに履修していること							
	そ の 他	なし							
授業概要： 統計データの信頼性の許容範囲を測定・分析するためのいろいろな統計手法について、勉強を進める。									
授業目標： 基本的な理解をふまえて、金融分野での統計学の適用について理解を深める。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス、代表値、分散と標準偏差					事前：テキストの下読み 事後：まとめ		講義と演習	
2・3	確率分布、確率変数、確率密度関数					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
4・5	正規分布、パーセント点					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
6	母集団と標本、中心極限定理					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
7・8	区間推定、カイ2乗分布、t分布					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
9・10	仮説検定、t検定、カイ2乗検定					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
11・12	相関分析、相関図、相関係数、共分散					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
13・14	分散分析、ベイズ統計、シャープレシオ、ボラティリティ					事前：テキストの下読み 事後：まとめと実習		講義と演習	
15	全体のまとめ					事前： 事後：まとめと実習		講義と演習	
教本： 涌井 貞美「意味がわかる統計解析」ベレ出版 参考文献： 適宜紹介する。									
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等、小テスト・レポート・定期試験で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 統計データのもつ意味、信頼性について普段から考えるようにしてください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	グローバル化と文化A (Globalization and Culture A)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>グローバル化という言葉は日々、耳にします。しかし、よくある「グローバルスタンダードに従うにはどうすればいいのか」という言説には一定の疑いを持ってみる必要を説くことを主な目的とします。文化人類学の立場から、広いまなざしで考察してみましょう。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化とはどのような現象か					事前：特になし 事後：なし		講義 90分	
2	文化のグローバル化					事前：特になし 事後：ノート		講義 90分	
3	経済人類学と交易港					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
4	経済のグローバル化と文化のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
5	リージョナリズムとローカリズム					事前：安倍論文（配布） 事後：ノート		講義 90分	
6	文化の支配－被支配					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
7	文化資本化の現象					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
8	世界的価値変動					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
9	SNSがグローバル化に果たしている役割					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	民俗文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	民俗文化とグローバル化2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	グローバル化を前にした生活文化の変容					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	グローバル化を前にした生活文化の変容2					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	コスプレ文化はグローバルなものか					事前：自分とコスプレ 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義かレポート	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 多面的な人間社会の現実に照らし合わせて考えてみましょう。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	グローバル化と文化B (Globalization and Culture B)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	安倍 宰								
履 修 条 件	前提科目	グローバル化と文化A							
	その他	なし							
授業概要： グローバル化と文化Iを受けて、世界の文化のなかにおける日本文化の地位を論じてゆく。映画、アニメ、音楽などの海外向け日本文化と日本人にとっての日本文化は、どこが同じでどこが異なるのかを考えていきます。									
授業目標： 1. 何をもってグローバル化と考えるのか、その基準を自分自身の中に作り上げること。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	グローバル化と文化Iの復習					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
2	日本映画のグローバル化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
3	日本映画のグローバル化2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
4	映画にみる日本文化					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
5	「ゴジラ」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
6	「ゴジラ」の国際的評価2					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
7	「大魔神」					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
8	「大魔神」の国際的評価					事前：なし 事後：ノート		講義 90分	
9	「グレンダイザー」というアニメの物語					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
10	J-popの成立					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
11	日本におけるロック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
12	J-popの国際的評価					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
13	洋楽と日本のポップミュージック					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
14	コスプレ文化とグローバル化					事前：なし 事後：授業資料		講義 90分	
15	まとめと復習					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 使用しません。					参考文献： 授業内で紹介する。たくさん読んでください。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 私たちがいかに常識や良識にとらわれているか、心を真っ白にする努力をしてみましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									